

神戸市立図書館協議会 第6期 協議のまとめ

テーマについて

第6期図書館協議会の協議事項について、事務局からの「多様な人々の円滑な図書館利用」という協議テーマの提案を受け、在留外国人や中途失明等疾病による様々な障害など、図書館利用が困難な方に対するアクセシブルな環境を作っていくという内容で協議を進めることとした。

協議内容

1. どのような利用者がいるか

テーマの範囲は広い。どのような方が図書館の利用に際して不自由を感じるかを具体的に考えてみると、肢体不自由、視覚障害、発達障害、とりわけ学習障害に位置づけられるディスレクシア、日本語を母語としない在留外国人、認知症患者、認知症患者を支える人、高齢者、幼い子どもを持つ保護者などがあげられる。

視覚障害者へのサービスについては、これまでは厚生労働省所管の点字図書館と文部科学省所管の公共図書館に分かれている状態で、いわゆる福祉的、恩恵的な視点があったが、現在は、国や地方公共団体のあらゆる機関による合理的配慮がなされるべきという権利擁護の観点に変化しており、公共図書館として積極的に取り組むべきサービスである。

学校図書館では、ディスレクシアや視覚障害を有する子どもの読書をサポートする「リーディングトラッカー」の導入が検討されている。学校司書に継続的に読み聞かせをしてもらっているうちに、当初は静かに座ることが難しくても、じっと座って読むことができるようになる子どももいる。

公共図書館においても発達障害の子どもに対するサービスに取り組んでほしいが、例えば本を投げたり破ったりする行為に対して、どこまで対応できるか。発想をかなり転換しないと、取り組みが中途半端に終わるおそれがある。子どもの保護者からは、公共図書館では静かにしていないといけないので図書館になかなか行くことができないという話を聞く。こういった声に対して、公共図書館は、読書空間の最適化をめざすために、音のゾーニングの工夫がなされるべきである。また、LLブックの存在を、発達障害の子どもが集まる施設等や保護者にもっとPRするなど、子どもや保護者などに対し、もっとできることがあるのではないか。

日本語を母語としない在留外国人は、日本で生活する上での必要な知識や情報をどこで得ているのだろうか。外国人の子どもに対してはNPOなどの団体が図書を提供している場

所があるが、大人に対してはそのような場所は少ない。公共図書館で多言語の図書の収集や目録データの作成が難しいという事情はあるにせよ、「(仮称) 新三宮図書館の基本計画」に「資料は多くなくてもよい。住んでいる人たちの多言語・多文化を尊重する視点があるとそこに人は来る。図書館に行けば多言語・多文化の出会いがあるとよい」という記述があるように、自分たちが図書館利用サービスの対象者として歓迎されているということが伝われば、より図書館に入りやすくなるのではないか。

認知症患者については、当事者は何も読めないわけではなく、その時々で読めたり、あるいは音声読み上げによって聞くことはできたりと、多様なケースがある。そういった特性を視野に入れつつ読書環境を整えていく必要があるだろう。

高齢者にとって、病気にならないようにすることは大切である。高齢になると目や耳が不自由になる場合も多いため、視覚障害や聴覚障害等の資料を充実させ、高齢者が自分で調べて学習できる場を作るということも必要である。特に健康・医療情報について、図書館が情報サービスの場となることが求められるのではないか。

幼い子どもを持つ女性が、例えば男性が子どもと催しに参加している間に、子どもを気にしながらではなく、自分がゆっくりと本を探せるような取組みがあればよい。

また、幼い子どもを連れた保護者がベビーカーを押して楽に行ける環境整備や、性的マイノリティとされている LGBT の人々がストレスなく利用できるトイレなど、多様な利用者にとってバリアフリーな環境が望まれている。

2. 読書バリアフリー法（視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律）の成立

令和元年6月、いわゆる「読書バリアフリー法」（視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律）が公布、施行され、協議会の大きなテーマ「多様な人々の円滑な図書館利用」と符合する結果となった。

「読書バリアフリー法」の目的は、視覚障害者等の読書環境の整備を総合的かつ計画的に推進し、障害の有無にかかわらず、全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に寄与することである。基本理念としては、アクセシブルな電子書籍等の普及とアクセシブルな書籍（点字図書・拡大図書等）が提供されること、それらの量的拡充・質の向上が図られること、視覚障害者等の障害の種類・程度に応じた配慮がなされることとなっている。

神戸市立図書館では、対面朗読、大活字本など、従来型の障害者サービスは行われているが、アクセシブルな電子書籍等の充実についてはまだ不十分である。視覚障害、および発達

障害をはらんだ識字障害にしても、また外国人向けのサービスにしても、それぞれ克服すべき問題は異なるように見えるが、例えば音声での読み上げにより視覚障害や発達障害を有する利用者も日本語を母語としない在留外国人も理解できるなど、問題の解消方法が重なってくるはずである。

3. 認知症の方への図書館の取り組みの可能性

「多様な人々の円滑な図書館利用」というテーマは広いため、内容を絞り、今期の図書館協議会では、認知症の方やその家族の方々に図書館は何ができるか、その可能性を探ることとした。

神戸市は「認知症の人にやさしいまちづくり条例」を策定している。認知症診断の助成制度や認知症の方が事故を起こして賠償請求された時の救済制度、GPS 端末に対する助成などの仕組みも作るなど「神戸モデル」という形で先進的な取り組みを行っている。それだけでなく、日常生活のさまざまな場面で認知症の方が暮らしやすい街を市として創っていくという趣旨がある。こういった観点からも図書館としても認知症への取り組みを積極的に進めていくことが必要である。

認知症患者にやさしいということは、身体障害などの方にもやさしい図書館ということにつながるだろう。

図書館で認知症の方に対するサービスを充実させるには、次の二つの視点が重要である。一つには、認知症に関する知識が得られる図書や資料を置くこと。もう一つには、認知症患者が来館された時に利用しやすい図書と適切なサービスを提供できることである。昔のことや思い出などが非常に刺激になると言われている。大きな文字で読みやすいもの、図が多いものもよいのではないか。

まずは、認知症の方に図書館を「行きたい場所、行って楽しい場所」と思ってもらうことが重要である。京都市醍醐図書館では、ここ数年認知症が疑われる利用者が増えたことから、認知症でも安心して過ごせる方法はないかと考え、「認知症カフェ」からヒントを得て若者との交流で脳に刺激が与えられるようなイベントを企画している。そのようなイベントがあれば、図書館に行ってみようと思える。醍醐図書館では図書館員や医療介護従事者などの勉強会もあるようである。認知症の方に楽しいと思ってもらえるような取り組みを、主催する側も勉強してやっていくことが第一歩ではないだろうか。

また、認知症を予防するサービスも考えた方がよいだろう。高齢であっても元気でいる秘訣はおしゃべりをする事とも言われている。地域社会において公共図書館がおしゃべりできる場として存在するかしらないかが大きいのではないか。

もともと公共図書館には、家でも学校でも職場でもない「サードプレイス」（第三の居場

所)としての場が期待されている。一緒に行動するサークルでも、単に話をする場でもよい。高齢者と子どもが関われるイベントでもよい。そのようなところが図書館の中でできないだろうか。例えば、子ども向けの知育教材などを図書館資料として購入し、図書館ボランティアと一緒に楽しむなど、誰かと共に楽しくできることが認知症予防にもなる。

ただし、図書館として認知症のことに取り組むということになれば、高齢者施設や福祉団体とは異なり、図書や雑誌、あるいはもっと多様な図書館情報資源を介在させる方向性を考える必要がある。例えば、神戸市立図書館が現在行っている「みんなで楽しむ音読の会」では、みんなで声を出して本を読み、少し歌も歌うということだが、このようなコミュニケーションができる企画をさらに広めていけるとよい。

こういった催しは図書館に多目的な用途で使えるスペースがないと実施できない。地域図書館の中には狭いところも多いので、一律にはなく、できるところからできることを初めてはどうだろうか。

4. 図書館が目指すべきことと課題

従来、公共図書館は本の貸出をサービスの中心にしてきたが、認知症の方、あるいはその方たちを支える人たちにとって、図書館が一つの場になるという可能性について考えると、やらなければならないことが見えてくる。認知症の方自身が図書館で楽しめるような様々な取り組みを図書館が提供すること。また、認知症の方を看ている家族の人たちに、認知症についての正しい理解につながる情報を提供していくこと。最後に、認知症とは無縁な人たちが認知症についての理解を深めるための情報発信を行うことである。

しかしながら、これらを実現するには課題も多くある。第一に、こういったサービスを実施するには当然人手と経費が必要である。人や経費という少ない資源を無駄に使わないようリサーチを行い、まずは市内の各種連携先や福祉系の学校や大学からヒューマンパワーなどの面で助力を得ながら対応していくべきであろう。

第二に、認知症への対応は図書館だけで解決できるものではない。例えば、医療現場は診断と投薬が中心で、本人や家族がこの疾病に対してどのように対応していけばよいのか分からないことが多い。そこで図書館との「連携」が必要になってくる。

認知症の方が来館された場合に対応に苦慮する状況も発生するかもしれない。図書館における実践的な研修が必要である。例えば、認知症の人はこうだ、というイメージがあるが、認知症という病気は無く、単に症状に過ぎないという基礎知識を図書館スタッフが知っていかなければならない。大声をあげる人に対して、他の利用者、また実際に図書館現場スタッフがどのように対応するのが重要である。

受け入れる体制づくりはそう簡単にできるものではない。認知症の初期症状、あるいは認知症が進行した段階でも対応が異なるだろう。大事なことは、認知症患者である利用者を受

け入れる場として、まずその温かい眼差しが図書館の中に生まれ、感じられるようになってほしい。

今協議会では、認知症の方またはその周囲にいる方に対するサービスについて議論を重ねてきたが、視覚障害や発達障害を有する利用者、日本語が母語ではない在留外国人など、図書館の利用に障害がある方は多くおられる。このような現実を、「利用者ではなく、むしろ図書館の側に障害がある」というように認識を 180 度転換し、今後も図書や雑誌を読むことを楽しむ「読書センター」としての図書館、またさまざまな課題を解決することができる「情報センター」としての図書館を目指してもらいたい。

【第6期神戸市立図書館協議会の開催記録】

	開催日	報告事項	議事
第1回	平成30年 12月21日	会長等の選出 神戸市立図書館の事業について	今期の図書館協議会のテーマについて
第2回	平成31年 3月15日	平成30年度の図書館事業について 平成30年度市民満足度調査結果	図書館利用のアクセシビリティについて
第3回	令和元年 7月25日	平成26年～30年度の図書館事業について 平成30年度利用実績及び令和元年度利用見込み	平成30年度の事業評価について 読書バリアフリー法について
第4回	令和2年 2月13日	令和元年度の図書館事業について 図書館ご利用の皆様へのアンケート実施について 電子図書館の試行実施報告について	図書館利用のアクセシビリティと読書バリアフリー法について

【委員名簿】（任期：平成30年9月12日～令和2年9月11日）順不同・敬称略 ◎は会長、○は副会長

区分	氏名	役職等
学校教育関係者	山崎 悦子 (やまさき えつこ)	神戸市立小学校教育実践研修図書館グループ代表 (成徳小学校校長)
	河島 正和 (かわしま まさかず)	神戸市立中学校教育実践研修図書館グループ代表 (長坂中学校校長)
社会教育関係者・家庭教育の向上に資する活動を行う者	○一居 明子 (いちい あきこ)	「夕やけ文庫」所属
	森田 祐子 (もりた ゆうこ)	神戸市婦人団体協議会理事
	桜間 裕章 (さくらま ひろあき)	神戸市立博物館調査役
市民代表	安福 絵梨 (やすふく えり)	ネットモニターより選考
	葛西 裕子 (かっさい ゆうこ)	ネットモニターより選考
学識経験者	立田 慶裕 (たつた よしひろ)	神戸学院大学人文学部教授
	斎藤 誠一 (さいとう せいいち)	神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授
	◎湯浅 俊彦 (ゆあさ としひこ)	追手門学院大学国際教養学部教授

平成 30 年度 神戸市立図書館
事業評価

令和元 年 7 月
神戸市立図書館協議会

平成 30 年度神戸市立図書館事業評価

神戸市立図書館協議会は、事務局から提出された平成 30 年度の図書館サービスの自己評価について協議を行い、「平成 30 年度 神戸市立図書館事業評価」として公表する。

評価の基準

- A：計画どおり実施し、一定の成果があった
- B：概ね計画どおりだが、不十分な点や課題が残った
- C：不十分な点や課題が多く、計画どおりにいかなかった

平成 30 年度の取組項目と具体的取組及び評価項目

図書館事業評価一覧	
平成 30 年度の目標と行動計画	
1. 図書館資料の充実と外部データベースを用いた情報提供により、市民がライフステージに応じて、仕事、教育、福祉、法律などについて自ら学び、課題を解決できるよう支援する。	
評価のポイントと取組事例	<p>(1) 国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービスの提供 85 件 282 冊</p> <p>(2) レファレンス協同データベースへのデータ提供（図書館のレファレンスサービスや一般利用者の調査研究活動を支援するため、公共図書館、大学図書館等が協同してレファレンス事例、調べ方マニュアルなどのデータを蓄積、インターネットで公開するデータベース構築事業への参加とデータ提供） 登録 108 件 被参照件数 240,128 件</p> <p>(3) 貴重資料デジタルアーカイブズやデータベースの利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出前トーク「図書館貴重資料に見る“こうべ”」（中央）6/12 日本通運OB会 ・ 展示「貴重資料デジタルアーカイブズで見る明治期の神戸観光地 神戸名所」（中央）4/10～4/30 ・ 展示「語り継ぐ『神戸市大水害』～貴重資料デジタルアーカイブズ」より（中央）6/27～7/16 ・ 展示「湯のまち有馬～神戸市立図書館の蔵書で見る」（中央）1/10～1/30 ・ データベースセミナー（三宮）4 回 <p>(4) 課題解決につながる講座等の実施と参加者の声等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「管理栄養士さんといっしょに！クスリいらずのカラダをつくろう！」（兵庫）6/24 13 人 【参加者の声等】 「普段からの疑問が解明できて良かった。」「日常でできそうな健康法を知る事ができた。」 講師の方に熱心に質問される姿も見られた。 ・ 「栄養士さんに教わる“血液サラサラ健康講座”」（北・北神）11/23 12 人 ・ 「中国帰国者図書館見学会」（新長田）7/3 12 人 NPO 法人神戸定住外国人支援センター連携 【参加者の声】 「児童の大活字本があるのが良い。」「中国語の絵本があるなんて知らなかった。子供に読ませたい。」 ・ 「障害者が地域で暮らすこと@図書館」（兵庫）12/7 6 人 自立生活センターリングリング連携
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 貴重資料のデジタルデータを紹介する出前トークや展示を行いPRに努めた。 ・ 講習会を開催し、データベースや蔵書検索システムの利用に馴染みのない利用者への周知を行った。 ・ 定住外国人向けの見学会を開催し、利用促進に努めた。 ・ 身近な問題をテーマに課題解決につながる講座を開催した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービスの印刷物の提供について、検討中。
<p>評価</p>	<p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この部門は、図書館が市民の日常生活に役立つことを実感できる場所だと思います。(4)の講座ですが、回数がもう少し多く開催出来たらよいと思います。 ・(1)国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービスの参加館にはなっているが、閲覧のみで印刷ができない状況が続いている。近くの政令指定都市では大阪市や、明石市をはじめとする兵庫県下の幾つかの自治体の図書館で閲覧・印刷共に提供できていることが、神戸市でできないことはないと考えられるがいかがか。 ・(2)定住外国人向けの図書館見学会を新長田図書館で開催したことは高く評価できる。しかし、楽天 OverDrive の電子図書館サービスの実証実験を行っているのであれば、浜松市立図書館が浜松市南部協働センターで開催した、フィリピン人の親子 49 名が利用者カードをその場で作り、電子図書を借りて図書館利用ができると喜ばれたような取り組みを神戸でも実現すべきであると考えられる。 ・課題解決につながる講座等の実施は、従来の図書館活動を越えた積極的活動として高く評価できる。 <div data-bbox="1211 817 1377 967" style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>評価</p> <p>B</p> </div>

2. 課題解決を支援するレファレンスサービスの一層の周知に努める。	
評価のポイントと取組事例	<p>(1) 各種ブックリスト、パスファインダー（特定のテーマに関する資料の探し方、基本図書、図書館の使い方などを簡単にまとめたマニュアルや利用案内）の作成配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パスファインダー <ul style="list-style-type: none"> 「どうぶつ（ほにゅうるい）」他（兵庫・北・北神） 改訂版「世界遺産」他（東灘・灘・三宮・新長田・須磨・垂水・西） ・ブックリスト <ul style="list-style-type: none"> 「鈴木商店と金子直吉」「楠正成と楠公墓碑」（中央） 「食の知恵」（北） 「お仕事」（西）※中高生向け展示本リスト <p>(2) 図書館利用案内の展示や企画の実施と参加者の声等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示「ブックリスト郷土編をご利用ください」（中央）5月 ・展示「図書館で調べてみよう～国語・理科・社会・ふるさと」（中央）8月 ・展示「1年かけて西図書館を探検しよう」（西） <ul style="list-style-type: none"> ※月ごとにNDC（日本十進分類法）の分類番号を決め、関連図書を展示 ・「LOVE LOVE LIBRARY 西図書館講座」（西）6/8・6/22・6/29 各回5人 ・「孫と楽しむ図書館ツアー」（東灘）9/17 6人 <ul style="list-style-type: none"> 【参加者の声等】 「孫と一緒に楽しめてよかった」「クイズを通して孫の成長が見れた」「図書館のことを詳しく知ることができた」という感想の他、行事名と日付を入れたプレートを持っての写真撮影が「今日の記念になる」と喜んでいただけた。 ・「図書館バックヤードツアー」（中央）10/20・10/27 13人 <ul style="list-style-type: none"> 館内見学40分、ブックコート体験35分 ・「大人のための図書館ツアー」（三宮）11/23 3人 <ul style="list-style-type: none"> 【参加者の声等】 説明に熱心に耳を傾けておられ、今後は図書館を有効に活用したいという感想もいただいた。 ・「図書館べんりガイド」（須磨）10/28 9人
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料展示のテーマや時季に合うブックリストを作成、配布。パスファインダーも追加作成。既にあるものも内容を見直し、必要な改訂を行った。 ・調べ物に活用いただけるようブックリストを紹介するパネル展示を開催。夏休みの時期に合わせて教科別でも開催し、クイズ形式の展示も取り入れ、幅広い年代の方に興味をもってご覧いただけた。 ・見学イベントを実施し、図書館に親しんでもらえるよう利用を促した。

評価

【図書館協議会の評価・意見】

- ・調べることを支援するリファレンスサービスだけでなく、各年齢層，関心に応じた試みは，ネット検索が主流の中であって，図書館ならではのより身近な検索機能をアピールするものとして評価できる。
- ・図書館がより身近に感じられるようになる企画として、図書館ツアーが、各館で開催されているのは良いと思う。
- ・講座やツアーのなかに参加者が少ないものがあるのが、少し気になる。
- ・デジタル・ネットワーク社会における公共図書館の新たな役割を考える時、リファレンスサービスの高度化と同時に簡便化を図るために、ディスカバリーサービスを導入し、紙媒体中心、所蔵資料中心のリファレンスサービス体制を改める必要がある。現在、市民は図書館 HP の OPAC（オンライン閲覧目録）で所蔵資料を検索するだけであるが、図書館がディスカバリーサービスを導入することによって、さまざまな疑問に関して、歴史や文化、農・工業に繋がる専門的・先進的情報を市民が普段から活用できる。そのような環境を整えることが、これからの地域活性化への基盤作りになると考える。

評価

B

3. 本を仲立ちに人が集まり交流する場として、市民参画型の企画行事を実施する。

評価のポイントと取組事例

(1) 講演会、セミナー、工作教室、映画会等の実施（開催回数、参加人数、参加者の声等）

講演会等実施回数 236回 4,789人

- ・こどもの読書週間行事講演会「石井桃子さんのおくりもの」（中央）4/28 240人
【参加者の声】石井桃子さんの言葉に対する熱いや思い子どもに対する姿勢が心に残った。子どもたちにより本をという情熱が伝わってきた。自分のやっている活動を続けていく上での元気をいただいた。
- ・講演会「カナダと日本をつなぐ『赤毛のアン』～作者 L.M. モンゴメリの旅路～」（中央）10/8 69人
【参加者の声】詳しい丁寧なお話に感銘を受けた。L.M. モンゴメリに関心をもった。これからも機会があれば参加したい。
- ・講演会「本を届ける一出版の世界と図書館」（中央）10/21 55人
【参加者の声】 出版社、書店に携わる方の生の声を聞くことができ、本当に良かった。本に対する熱意を感じた。
- ・映画会（灘）月ごとのテーマを決めて開催
- ・バリアフリー映画会（東灘）3/17 20人（灘）4月他
- ・大人向けの朗読会（中央・灘・新長田・須磨）計342人
- ・「大人のためのストーリーテリング」（北神）11/7 43人
- ・「大人のための絵本会」（垂水）12/22 5人
- ・「みんなで楽しむ音読の会」（中央）3回 31人
- ・「英語 de 読書会」（灘）8回 計85人
- ・「中身は何か？本のおたのしみ袋～今度は大人」（新長田）10/16～11/2
- ・「楽しい絵手紙講座」（北神）4回 25人
- ・大人が楽しむ折り紙の会（新長田）11/10 8人
【参加者の声等】関連本のブックリストも作成。苦戦した方からも「もう一度チャレンジしたい」というコメントや「難しかったので」とやや優しい折紙の本を借りて帰られた方もおり、全員に満足してもらえたようである。
- ・大人の工作教室「巻物 de 自分史」（須磨）11/11 6人
【参加者の声等】全員が2本目の巻物を作成。楽しかった、巻物が素敵でうれしいと、とても喜んでいただけた。
- ・「わくわく★工作ひろば」（東灘）8/19 194人
- ・夏休み工作会「カスタラッコをつくろう」（中央）8/23 8人
- ・おりがみ工作&おはなし会（中央）10/27 23人
- ・紙しばい「ありがとう！六甲山」のお話し会（全3回公演）（中央）11/11 64人
- ・図書館クイズラリー「ともだち100にんできるかな!？」（新長田）3月 127人
【参加者の声等】「とても楽しんで出来た。子供がクイズに使われていた本のシリーズ本を借りたいというので借りることにした。定期的にやってほしい」
- ・「親子新聞教室」（東灘・三宮・須磨・垂水・西）110人
- ・おひぎのうえの（パパ&赤ちゃん）おはなし会（北神）7/15 16人
【参加者の声等】「他の家族のご様子が聞けてとてもよかった。」「色んな遊びができた。」手遊び、ふれあい遊びでは男性ならではの力強い動きに赤ちゃんたちの歓声があがっていた。交流会では、子（孫）育ての大変さと喜びを語りあい、世代を超えた交流ができた。
- ・「パパ、ほんよんで!」（西）1/14 10人
- ・育メンおはなし会（東灘）3/30 10人

(2) 参加型展示

- ・「ぶらっと一言コーナー」（新長田）「おたよりコーナー」（灘・垂水・西）※図書館への質問やお手紙
- ・「どくしょの木」「読書のみなど」「読書のそら」「読書の家」（灘・西・三宮・新長田・垂水）
※本の感想
- ・「本のわ」コーナー（北）「あなたにこの本おすすめし隊」（北神）※おすすめ本の紹介
- ・「集えオススメ本」（垂水）※利用者のオススメ本を募集し、展示
- ・「みんなで馬場のぼる」（三宮）3/29～4/10

	<ul style="list-style-type: none"> ・「魚およぐ図書館～こいのぼり大選挙～」(垂水) 4/22～5/12 ・「わらしべBOOK」(新長田) 10/16～ ※利用者おすすめ本のリレー (5冊) <p>(3) ワークショップ等来館者の参加と交流を促進する企画の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ちいきいと vol.24 神戸市民ならこれを読み 篇」(兵庫) 6/10 67人 ※神戸市内の地域を代表する人達が、与えられたお題(書名)に対し用意した写真(地域に関連した)で行う、大喜利形式のトークイベント ・「イチオシ!中高生読書交流会」(北) 8/9 16人 ・ワークショップ「絵本作家山本隊長と行く!マリンスノー深海探検隊」(須磨) 8/19 99人 ※できるだけ多くの方に参加いただけるよう、イベントは終わった方から退場し、次の方に入っていただく「流し」の形式をとった。 <p>【参加者の声等】</p> <p>「手ぶらで参加できたイベントなのに、すごく満足でした。」、すぐに入ることができなかった方からも「待っていてよかった。人気なイベントに参加できてうれしい」というお声を頂いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みんなちがって みんないい@図書館」(兵庫) 3/21 46人 ※ダウン症児保護者の情報交換等。昨年に続き2回目を開催
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">評価</p>	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な年代・興味に応えるイベントを各館で工夫を凝らし実施。 子育て世代の男性も参加しやすい形でのイベントを開催する館も増え、読み聞かせ、手遊びのほか絵本の選び方のアドバイスなどを行い好評であった。 ・児童やYAのコミュニケーションを図るとともに、読書への興味や関心を引き出す参加型展示を実施したほか、来館者おすすめ本のリレー形式での展示も初めて行った。 ・図書館を通して地域や人に親しみ、交流を生むイベントを開催。より多くの方に参加いただけるような工夫も行った。満足度も高い。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多彩な行事を実施していることは評価したい ・楽しそうなイベントや企画が多くあり、良いと思います。「定期的にやってほしい」という声のでた企画については、継続して実施することを望みます。 ・子ども向けの工作教室など、参加型の企画は学校でも紹介でき、本を活用する場面につながっていくと思われま。 ・(2)講演会「本を届ける一出版の世界と図書館」(2018年10月21日、55人)は神戸市立図書館としては画期的なイベントであったと考える。ビジネスとしての書店、知のインフラとしての図書館が出版の世界を拓げ、持続可能な出版メディアのこれからのあり方を模索するという意味で、ゲストスピーカーの発言はきわめて明快かつこれからの方向性を予感させるものであった。 ・図書館の新たな機能として、積極的に市民に働きかける活動して大いに評価できる。 ・講演会、セミナー、工作教室、映画会等の実施について、236回4,789人を集めたことは高く評価することができる。ただ、イベント内容が昔ながらの図書館の枠組みを超えていないのが残念である。例えば、ドローン、3Dプリンタ、ロボットのような新しい科学技術に関するイベントの開催を積極的に目指すことによって、人文社会系、社会科学系に偏りがちな図書館を変えることが可能となり、ヤングアダルト層を図書館利用者として迎え入れることができると考える。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 20px auto;"> <p style="text-align: center;">評価</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">A</p> </div>

4. 地域に関する情報の確実な収集に努めるとともに、特に市政に関する資料については、市民の理解を深め、地域の課題解決に役立つよう、関連部局と協力し紹介方法を工夫する。	
評価のポイントと取組事例	<p>(1) 図書館からの情報発信として業務に役立つ、市職員向け新着図書案内等のメールマガジン送信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新着図書情報 46回（中央） イベント案内等 17回（中央） ・児童向け図書館だより「としょ☆ぴか」（毎月発行）を、市立小学校・幼稚園に送信 <p>(2) 食育や土砂災害防止、自殺予防などの取組みを進める関係部局と連携し、市民の理解や知識の普及に資する展示を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯と口の健康週間関連展示「大切な歯のために～歯から健康」（中央）6月 神戸市口腔保健支援センター連携 ・自殺予防週間関連展示9月、自殺対策強化月間関連展示 3月 （中央・東灘・灘・三宮・兵庫・北・新長田・須磨・垂水） 神戸市精神保健福祉センター連携 ・土砂災害防止パネル展（東灘）6月 六甲砂防事務所連携 ・神戸市認知症にやさしいまちづくり条例施行PR・世界アルツハイマーデー関連展示「人にやさしくみんな明るく～認知症なんてこわくない」（中央）9月 介護保険課連携 <p>【来館者の様子】</p> <p>パネルの記事や本を熱心に読まれている方が多く、年齢にかかわらず、関心の高い身近な問題であることがよくわかった。</p>
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庁内に向け定期的に新着図書やイベント情報を発信し、資料や情報の提供を行った。 ・他部局と連携し、市政の取り組みやキャンペーンを紹介する各種展示を行うとともに、課題解決につながる資料紹介を行い啓発に努めた。 ・他部局との事業連携や市政情報の発信など、行政支援に果たす図書館の役割について印象付けた。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「行政支援に果たす図書館の役割」を印象付ける取り組みは、大切。例えば、認知症支援への図書館の取り組みなど、継続して発信していただきたいです。 ・地域に関する情報の確実な収集、提供については高く評価することができる。今後は、行政資料等の地方公共団体の資料そのものの電子図書化と検索可能なディスカバリーサービスの導入をセットで考え、少しずつでも公共図書館が地方公共団体の情報のポータルサイトとなることに奮闘すべきと考える。 ・身近に行われているが、わかりにくい市の事業などの理解を深めるために市民に伝えることは、市立図書館として新しい機能として評価できる。

評価
A

5. 他部局や地域の社会教育施設、民間の関係団体等と連携し、講座、企画展示などを行うことによって、多様な学習機会を提供する。

<p>評価のポイントと取組事例</p>	<p>(1) 児童館、公民館、動物園、埋蔵文化財センター、青少年科学館、神戸市精神保健福祉センター、神戸アーカイブ写真館、日本政策金融公庫、NPO 法人、福祉団体等と連携したおはなし会、セミナーや講座、展示の開催と参加者の声、マナビィ単位認定対象講座の開催数</p> <p>イベント実施回数 327回 参加者 9,997人 展示 113回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「謎解き？六甲絵葉書など今昔パネル展」(東灘・灘・三宮・新長田・須磨・垂水・西) 7月～10月 神戸アーカイブ写真館連携 ・阪神・淡路大震災24年パネル展 (東灘・灘・三宮・新長田・須磨・垂水・西) 1月～2月 神戸アーカイブ写真館連携 ・「Croak!世界の不思議なカエル 原画展」(三宮)6/1～6/14 (神戸市在住イラストレーター黒川宇吉氏) ・「田岡和也展 兵庫景」(兵庫)11/11～12/9 (地元画家田岡和也氏) ・すくすく赤ちゃんセミナー 区役所連携 全地域館で実施 ・公民館サマースクールにて、バックヤードツアーとブックコーティングを実施(中央)8/22 41人 ・「椎名誠さんトーク」ふたば学舎イベント会場で関連図書の出張展示(中央)12/16 ・ビジネス支援講演会「起業(ゆめ)を形に」(中央)2/16 13人 日本政策金融公庫連携 【参加者の声】「起業ということが身近になった。ハードルが少しさがってよかった。」 「分かりやすく為になった。」 ・神戸キワニスこども文庫おはなし会「英語絵本であそぼう！」(中央)3/3 30人 ・「わくわく★工作ひろば」(東灘)8/19 194人 東灘マスターズの会連携(再掲) ・「気軽に落語会」(灘)3回 83人 楽喜落語研究会 ・神戸大学天文研究会共催イベント「夏の夜空とわく星」(灘)8/8 19人 ・「六甲山発郷土誌」(灘)9/16 10人 六甲山を活用する会 ・ビジネスセミナー「クラウドファンディングに挑戦したい！」 生島正氏(NPO Local Creation)講演会(三宮)25人3/20 ・「ちいきいと vol.24 神戸市民ならこれを読み 篇」(兵庫)6/10 67人(再掲) ・音で体感♪読み聞かせ「神戸空襲の記憶」(兵庫)8/19 21人 神戸空襲を記録する会ほか連携 ・地域商業活性化事業(地域連携型)出張おはなし会、出張図書館、クイズラリー、読書感想文書き方講座、絵本の選び方講座(兵庫)8月・11月・12月 ジョイエール御旅連携 ・「兵庫駅南公園こどもフェスタ」(兵庫)8月・2月 駅南公園こどもフェスタ実行委員会連携 ・「障害者が地域で暮らすこと@図書館」(兵庫)12/7 6人 自立生活センターリングリング連携(再掲) ・「街の図書室 読書交流会」(北)8/26 8人 大人の居場所研究舎なりわい主催 ・「中国帰国者図書館見学会」(新長田)7/3 12人 NPO法人神戸定住外国人支援センター連携(再掲) ・「生活日本語クラス図書館見学会」(新長田)7/24 8人 NPO法人神戸定住外国人支援センター連携 ・「夏休みわいわい英語教室&夏休み読書会」(新長田)4回 計22人 ※外国にルーツを持つ小学生を対象とした絵本の読み聞かせ、折り紙、英語教室 NPO法人神戸定住外国人支援センター連携 ・KIT(子育て総合支援施設)サイエンスカフェ(新長田)11/25 19人 神戸常磐大学連携 ・KOBE 須磨さらくえん「青空市」参加 読み聞かせ体験(須磨)6月・10月・3月 182人 ・「垂水の浜の生き物とふれあおう！」(垂水)7/28 14人 マリンピア神戸さかなの学校、神戸市立栽培漁業センター連携 <p>【参加者の様子】 生きてる魚などを目の前にして、子供たちは熱心に見入っていた。夏休み自由研究の参考にメモをとる親子の姿も見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「てづくりサマーフェスタ親子で空気砲づくり」(西)7/16 17人 西区民センター連携 ・「雨と緑と・・・のワークショップ～雨の日を好きになってみませんか？」(西)3回 計72人 神戸市立工業高等専門学校都市工学科・総合運動公園連携 <p>(2) マナビィ単位認定対象講座の開催数 24件</p>
---------------------	---

評
価

【図書館の自己評価】

- ・行政他部局等と多様に連携し、工夫を凝らした多くの企画により学習の機会を提供。地域の施設、団体との連携により、その館ならではの特色ある取り組みができています。図書館外での実施も多く、地域の中で図書館や本に親しみを持ってもらえるよう努めた。

【図書館協議会の評価・意見】

- ・地域の施設、団体と連携しようと努力している姿勢は感じられる
- ・地域の施設や団体と連携して、老若男女、国籍、障害などを越え広く人々に向けて、様々な企画を実施されており、続けていただきたいです。
- ・神戸にあるたくさんの文化的な施設をより有効に活用するため、図書館と連携することは大変価値のあることだと思います。
- ・他部局や地域の社会教育施設、民間の関係団体等と連携して実施したイベント回数が327回、参加者9,997人、展示113回については、高く評価することができる。今後も積極的な実施を期待したい。
- ・個別に活動することが多かった各関連施設を結びつけ、市民ニーズに応える活動を数多く実施したものとして評価できる。

評 価

A

6. 総合教育センター学校図書係と連携した学校図書館の機能強化や学校図書館を活用した授業等への支援として、団体貸出や司書による運営アドバイスなどを行う。	
評価のポイントと取組事例	<p>(1) 司書教諭、学校司書への研修等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/9 学校司書1年次研修 市立図書館の説明と館内見学 学校司書 20人 ・5/15 神小研図書館部総会での近刊図書ブックレビュー 教員 30人、学校司書 14人 ・7/23 学校司書経験者研修での講師 学校司書 90人 ・10/17 市民向け講座「講座 学校図書館」での講師 受講 49人、修了 45人 ・12/18 神小研図書館部「選定の会」での近刊図書ブックレビュー 教員・学校司書 36人 <p>(2) 学校図書館への団体貸出、「テーマ本集め」の実施 475件 14,182冊（全館）</p> <p>(3) 中央図書館における小学校総合学習用図書、幼稚園巡回用図書の貸出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合学習用図書セットの利用実績 197回、20,512冊 ・古くなった図書買い替え（35セット約3,700冊うち650冊） 「災害・防災」セットを追加購入 1種類2セット（110冊） ・幼稚園巡回図書 30年度 市立幼稚園 36回（4,320冊）、私立幼稚園 12回（1,440冊） <p>(4) 出前授業「本へのとびら」の全館実施と参加者の声等</p> <p style="padding-left: 20px;">※学校に出向き小学校3・4年生を対象とするブックトーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東灘、灘、三宮、北、兵庫、新長田、須磨、垂水図書館で実施 <p>【参加者の様子】（新長田）</p> <p>「協力する大切さ」</p> <p style="padding-left: 20px;">えほん、読み物、主題の本それぞれから、生き物や人間の協力する形をアプローチした。冒頭ではテーマを伝えずに進めたが、児童達から「大切なのは協力すること」と声上がり、紹介した本の内容から、本質を理解してもらうことができた。</p> <p>「1/2成人式 成長」</p> <p style="padding-left: 20px;">前日に1/2成人式を行い（学校行事）、当日は家族の大切さから成長を感じられる内容で、主に絵本を紹介・読み聞かせした。子ども達は、まわりの助けがあって今の自分があるということをそれぞれに解釈し実感していたようだった。</p>
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校司書への研修会等を実施し、最新の情報提供や運営アドバイスを行い、学校図書館・学校司書へ支援した。 ・学校からの具体的なテーマに応じた図書を選択し貸し出す、テーマ本貸出を全館で数多く行い支援した。 ・総合学習用図書セットを貸し出すことで学校図書館での読書活動を支援した。 幼稚園に対しても巡回用図書を貸し出し、幼稚園での読書活動を支援した。 ・出前授業「本へのとびら」では各学年に沿ったテーマでブックトークを行い、本質を理解してもらい読書の楽しさを伝えた。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館、学校司書への支援や研修は、引き続き力を入れて実施していただきたい。古くなった、学校用幼稚園用の図書の買い替えも、早い目に取り組んでほしいです。 ・「司書教諭、学校司書への研修等の実施」「学校図書館への団体貸出、『テーマ本集め』の実施」「中央図書館における小学校総合学習用図書、幼稚園巡回用図書の貸出」「出前授業『本へのとびら』」の取り組みは高く評価することができる。 ・学校図書館の活動が司書の参入で活発になってきており、これまであまりなかった連携を強め、市立図書館の蓄積を伝え、各図書館の強みを生かす活動として評価できる。 ・中学校以上への支援についても、取り組みが必要である。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">A</p> </div>

7. 図書館に対する理解と関心を高め、利用者層の拡大を図るため、ホームページ等を活用した積極的な情報発信に努める。

評価のポイントと取組事例	<p>(1) 行事や展示の紹介などコンテンツの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各館のページを定期的に更新（年4回）し、開催済みイベント・定例イベントのPR等を掲載 ・KOBE 電子図書館（電子書籍の試行実施）の案内ページを作成し、利用案内等を掲載 <p>(2) 他部局、関係機関、民間団体等が運営するインターネット情報発信への情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こうべ子育て応援カレンダー」への情報提供（中央・兵庫） ・「KOBE 子育て応援団ママフレ」への情報提供（全館） ・イベントサイト「KOBE Today」にイベント情報掲載 <p>(3) Facebook での発信と反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掲載記事数 157 件 「いいね!」数 715 件（平均 4.55 件）
--------------	---

評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各館のページに毎月の行事予定等を掲載するとともに、最近のイベントやトピックを知ってもらえるよう定期的な更新を行い積極的な広報に努めた。 ・KOBE 電子図書館の案内ページを作成し、試行実施のPRに努めた。 ・インターネットによる情報発信の機会を捉え、情報提供に努めた。 ・FaceBook を活用し、業務や行事についての日常的な情報発信に努めた。 ・定期更新回数を増やすことができなかった。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページには、必要な情報への案内がコンパクトに網羅されていると思いますが、第一印象としてちょっと事務的な感じがあります。ホームページを見たくなるような仕掛けが欲しい。 ・ホームページ等を活用した市民への情報発信における課題は、定期更新回数を増やすことであり、その点の一層の取り組みを期待したい。 ・ホームページを更新しても、それを伝えないと閲覧しないことが多いので、フェイスブックの活用は評価できるが、より告知機能を強めるために、LINE 公式ページなどさらにSNSの活用が求められる。 <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100px; height: 60px;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">評 価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 10px; font-size: 24px;">B</td> </tr> </table> </div>	評 価	B
評 価			
B			

8. 自動車図書館を活用し、図書館から離れた地域の子供と保護者に対する子育て支援のための情報提供に努める。	
評価のポイント	<p>(1) 地域のイベントや行事予定、区役所等が実施する子育て支援事業などの情報の紹介、提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新のチラシ、パンフレットを備え付けのパンフレットラックに設置、配布 <p>(2) 妊娠、乳幼児の病気・健康管理、遊びや成長など育児、子育てに関する図書コーナーの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子育て支援コーナー」を自動車図書館の棚内に設置 ・子育て関連図書の新刊を継続的に購入し、児童書は新刊の他に傷んだもの等の買い替えを実施
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ・パンフレットを積極的に収集し、地域の情報提供を行った。 ・本のリストや読書記録帳を配布し、子育て世代を支援し、子供たちを読書に誘えるよう努めた。 ・子育て関連図書を継続的に購入し、積極的に買い替えも行い、資料の充実を図った。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館から離れた地域こそ大切に、という気概で、継続して頑張っていたきたい。 ・図書館までの距離の遠い地域、高齢者、子育て中の人々にとってたいへん価値のある取り組みです。 ・自動車図書館の巡回は、図書館遠隔地の利用者にとってきわめて重要なサービスであり、今後も継続することを期待したい。また、「子育て支援」などテーマをもった棚を自動車図書館に設けることはきわめて意欲的な取り組みであり、高く評価することができる。 ・自動車図書館は、市域の広い神戸にあっては、各市立図書館から交通の便がわるい地域へのサービスとして評価できる。また、一歩進めて移動が困難な高齢者に対する貸借サービスも今後の課題として検討されたい。 <div style="text-align: right; border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>評 価</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">A</p> </div>

9. ボランティアに対し、活動の機会や場所に関する情報提供に努めるとともに、地域連携推進課教育・地域連携センター等と協力し、交流会や研修等を実施する。

<p>評価のポイントと取組事例</p>	<p>(1) 読み聞かせに必要な絵本の団体貸出などの活動支援 ボランティアグループ等（学校園・児童館等の機関を除く）203 団体に対して団体貸出を行った</p> <p>(2) ボランティアが参加するおはなし会等の開催、企画や運営にボランティアが参加する協働事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアによるおはなし会は、児童・乳幼児・大人等様々な年代を対象に実施 ・定例行事 全館で 28 団体が、1 か月あたり 44 回活動 ・協働事業 「アニマシオン～本であそぼう！～」(灘・新長田) 5 回 あにましおん探偵団 「夏休み特別おはなし会」(中央) 8/7 56 人 こうべ子ども文庫連絡会と共催 <p>(3) ボランティア（ボランティアグループ）の交流や仲間づくり、情報交換のための交流会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア交流会（第 4 回ボランティアスキルアップ講座）(中央) 2/8 36 人 ・朗読ボランティア交流会（垂水）7/17 11 人 <p>(4) ボランティアに対する県立図書館等が実施するボランティア向け講習会や助成事業等の情報収集と情報発信</p> <p>当館実施の講座を中心に「子どもゆめ基金」等について、各館で活動しているグループに伝える他、こうべ子ども文庫連絡会を通じて広報</p> <p>(5) ボランティアの育成やスキルアップを図る研修等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞多聞小学校での読み聞かせボランティア研修 6/29 32 人 ・ボランティアスキルアップ講座 第 1 回 「大人のためのおはなし会」（読書週間行事を兼ねる・一般の方も参加）10/28 26 人 第 2 回 「おはなし会のためのお遊び・わらべうた」 12/6 46 人 第 3 回 「児童書近刊紹介」 1/11 30 人 第 4 回 「読書ボランティア交流会」 2/8 36 人（再掲） ・読み聞かせびと養成講座（教育・地域連携センター主催） 会場（中央図書館・東灘図書館 各 1 回）と資料の提供を行った
<p>評価</p>	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体に対して図書を貸し出し、活動を支援。多様な活躍の場を提供した。 ・交流会やスキルアップのための講座を開催し、より実りある活動をしていただけるよう支援を行った。 ・児童書近刊紹介を初めてボランティア対象で実施し、非常に好評であった。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館ボランティアとして、誰のために何のために活動をするのかを考える機会を含めて、今後も研さんの場を多く作っていただきたいと思います。 ・ボランティアグループへの絵本の団体貸出、またおはなし会の実施などは今後も積極的に続けていただきたい地域連携活動であると考えている。 ・図書館がすべてを担うのではなく、たとえば本離れが顕著な若い養育者に対して、子どもにとっても養育者にとっても本の重要性を知っていただくために必要な活動を支援するものとして評価できる。 <div data-bbox="1212 1859 1380 2004" style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>評価</p> <p>A</p> </div>

10. 電子書籍導入を進めるとともに、中央図書館所蔵の貴重資料のデジタル化と館内端末やホームページでの公開をさらに進め、従来の活字資料とあわせて体系的に紹介する。			
評価のポイントと取組事例	<p>(1) KOBE 電子図書館の試行実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽天(株)と協定を締結し、6/22より電子図書館サービス「Rakuten Over Drive」を導入 ・市民満足度調査(12月)で電子図書館に関する質問を設けた 電子図書館を知らなかった人は43%、利用したことがある人は21%、知っているが利用したことがない人は36%だった。 ・PR活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. ネットモニターへの情報発信 4,745人 2. 外国人学校へのPR 約1,500人 3. 神戸市立幼稚園39園へチラシ配付 1,809人 4. 中央図書館1号館1階での説明会 30人 5. 特別支援学校 病弱学級へのPR など ・平成30年度の実績(6/22～翌年3/31) ID登録者数 8,104人 貸出者数 17,009人 貸出冊数 25,405冊 全書籍数 13,473冊 <p>(2) 貴重資料デジタルアーカイブズの紹介展示(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示「貴重資料デジタルアーカイブズで見る明治期の神戸観光地 神戸名所」(中央)4/10～4/30 ・展示「語り継ぐ『神戸市大水害』～貴重資料デジタルアーカイブズ」より(中央)6/27～7/16 ・展示「湯のまち有馬～神戸市立図書館の蔵書で見る」(中央)1/10～1/30 		
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KOBE 電子図書館の試行実施に関して、地域館のイベント時にもチラシを配付するなどPRに努め、新規登録者の獲得につなげた。 ・テーマを決めて、貴重資料デジタルアーカイブズを紹介するパネル展示を開催し、地域への興味関心を高めた。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これから、求められる分野です。取り組みを続けていってほしい。 ・電子図書館サービスがもたらす市民の情報行動への利便性は、単に紙の本を電子化したということにとどまらず、①音声読み上げによる視覚障害等を有する利用者に対する読書アクセシビリティの確保、②日本語を母語としない定住外国人への多言語対応による多文化共生社会の実現、③ディスカバリーサービスを導入することによって可能となる電子図書、自館制作の貴重書データベースや新聞記事等の商用データベースなどの統合検索によるレファレンスサービスの高度化・簡便化が実現できることにある。現在のKOBE電子図書館は電子書籍の貸出サービスという黎明期であり、実証実験から契約ベースによる積極的な展開に期待したい。 ・書籍自体が紙媒体だけではなく、時代の流れに合わせて多様な媒体に対する対応として評価できる。 ・登録者数、利用の状況が多いのかどうか判断が難しい数字。利用したいと思うサービスになっているのかについての分析が必要では。 <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> <table border="1" style="width: 100px; height: 100px; margin-left: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; font-size: 2em;">A</td> </tr> </table> </div>	評価	A
評価			
A			

11. 地域図書館の蔵書の利用度に応じて、経年劣化による傷んだ蔵書を更新する。			
評価 の ポ イ ン ト	<p>(1)地域図書館の蔵書約2万冊を利用度に応じて買い直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料として高額で買い替えしづらい既存の全集や、内容の古くなった辞典・辞書・図鑑類を中心に購入 (購入内容としては、新編日本古典文学全集や日本美術全集、谷崎潤一郎全集、松本清張全集、絶滅危惧動物百科、多言語辞書等) ・平成30年度 約1万3千冊受入(平均単価2,300円) 		
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蔵書構成や利用状況を考慮しつつ計画的に図書の除籍を行い、各館の書棚の状況に応じた種類の図書を積極的に購入。大規模な入替えを実施することにより、魅力的な書棚になるよう努めた。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新鮮で魅力的な書棚をつくるためにも、利用頻度に応じて蔵書を除籍し、買い替える作業は大事だと思います。ただ、絶版となっている児童図書などで、別の扱いとする見極めと配慮が欲しいものもあると思います。 ・蔵書の更新はきわめて重要な公共図書館の任務であり、地域図書館の2万冊の買い直しは評価することができる。 ・地域図書館の機能を生かすために、所蔵だけでなく、地域ニーズに対応した活動として評価できる。 <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100px; height: 60px;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">評 価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 10px;">A</td> </tr> </table> </div>	評 価	A
評 価			
A			

12. 人口規模、貸出件数に見合った図書館の整備に向けて、新西図書館に関する基本計画を策定する。	
評価のポイント	<p>(1) 図書館利用者や地域住民を対象とするアンケートの実施・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/12～6/24 利用者向け=541件、6月～7月 地域住民=869件回収 <p>(2) 有識者と市民からなる検討会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月～9月 計3回開催 居心地の良い空間、集まって学べる場所、区民が誇りに思える図書館に、などの意見を得た <p>(3) 基本計画(案)の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントの実施 区民の意見の聞き方、今後の運営方法、レファレンス機能、開館時間延長などについての意見のほか、ユニバーサルデザインの目的にかなった施設とするため障害のある当事者に意見を聞くことなど、24件の意見 <p>(4) 基本計画の策定 (12月)</p>
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート実施と検討会開催を経た上で基本計画(案)を作成し、パブリックコメントを実施。いただいたご意見を反映させた基本計画を策定し、ホームページ等で公表した。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新西図書館に関する基本計画(案)の作成など、図書館整備に向けての取り組みは評価できる。 ・ただ標準的な図書館を整備するのではなく、アンケートなどにより住民意識を反映しての新図書館整備は評価できる。 <div style="text-align: right; border: 2px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p style="text-align: center;">評 価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">A</p> </div>

13. 都心・三宮の再整備にあわせて三宮図書館を移転するにあたり、新三宮図書館の基本構想を策定する。	
評価 の ポ イ ン ト	<p>(1) ネットアンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5/20～6/19 340 件の回答 <p>(2) 有識者と市民からなる検討会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月～9月 計3回開催 <p>多世代の人・多様な人が利用しやすい図書館、多言語・多文化との出会いのある図書館。他機関につなぐ機能、バスターミナルやホールとの連携などの意見を得た。</p> <p>(3) 基本計画(案)の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パブリックコメントの実施 <p>お話の部屋、カフェ、こどもトイレ等施設や設備について、アクセスの心配、開館時間、運営方法について、子育て世代にもっと意見を聞くことなど 17 件の意見</p> <p>(4) 基本計画の策定 (12 月)</p>
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート実施と検討会開催を経た上で基本計画(案)を作成し、パブリックコメントを実施。いただいたご意見を反映させた基本計画を策定し、ホームページ等で公表した。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各世代、それぞれ居場所があるような親しみを感じる図書館を実現するためにも、多くの意見を聞く機会を作ってほしい。 ・ 新三宮図書館の基本構想について、多世代・多様な人、多言語・多文化が謳われているが、それを実現するための ICT 活用を含めた具体的な取り組みを期待したい。 ・ 利用者ファーストの図書館構想の策定として評価できる。 <div style="text-align: right; border: 2px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 20px auto;"> <p style="text-align: center;">評 価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">A</p> </div>

14. その他	
評価のポイントと取組事例	<p>(1) 児童向けパスファインダーの配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改訂版を配布 「世界遺産」「昔の暮らし」「地震」「韓国・朝鮮」「昆虫」「星」 7月（東灘・灘・三宮・新長田・須磨・垂水・西）（再掲） ・「のりもの」7月、「むし」11月、「妖怪」2月（兵庫・北・北神） ・改訂版を配布 「韓国」「オリンピック」「木の実・種」7月（兵庫・北・北神） ・「どうぶつ（ほにゅうるい）」3月（兵庫・北・北神）（再掲） <p>(2) 調べ学習関連企画の実施と参加者の声等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「調べてつくるふしぎ新聞」（中央）8/10 6人 【参加者の様子】 時間がかかなりオーバーしたが、皆最後まで頑張って百科事典や図鑑を調べ、新聞を完成させた。 ・夏休み調べ学習「調べてみよう！昔の暮らし・今の暮らし」（北）7/28 3人 於：内田家住宅 ・自由研究相談室（西）「神戸の遺跡相談室」8/1 9人 「児童文学相談室」8/3 10人 「科学相談室」8/23 7人 ・「オリンピック博士になろう」（北神）11/18 6人 ・「図書館探検隊」（垂水）8/5 5人 <p>(3) 「だっこでおはなし」等乳幼児と保護者向け事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童館との連携による「だっこでおはなし」の開催（中央、東灘、三宮、兵庫、北、須磨、垂水、西） ・出前トーク「子供の発達と読書」（中央）3回 48人
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童向けパスファインダーは改訂も行い、新しい情報を提供できるよう努めた。 ・夏休みの時期だけでなく秋にも調べ学習イベントを行い、学習支援に努めた。 ・「だっこでおはなし」では保護者の方と直接お話しすることで家庭での読み聞かせの後押しとなり、実際に本を手にとってご覧いただくことで絵本選びの参考にもなっている。図書館への来館のきっかけにもなっている。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児と保護者向けの事業は、引き続き力を入れて続けて行っていただきたいです。 ・「児童向けパスファインダーの配布」「調べ学習関連企画の実施」「だっこでおはなし等乳幼児と保護者向け事業の実施」はいずれも次世代の図書館利用につながる取り組みであり、高く評価することができる。 ・いずれも図書館に親しんでもらい、身近な学習施設として利用促進をはかる仕掛け作りとして評価できる。 <div style="text-align: right; border: 2px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 20px auto;"> <p style="text-align: center;">評 価</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">A</p> </div>

令和元年度 神戸市立図書館
事業評価

令和2年8月
神戸市立図書館協議会

令和元年度神戸市立図書館事業評価

神戸市立図書館協議会は、事務局から提出された令和元年度の図書館サービスの自己評価について協議を行い、「令和元年度 神戸市立図書館事業評価」として公表する。

評価の基準

- A：計画どおり実施し、一定の成果があった
- B：概ね計画どおりだが、不十分な点や課題が残った
- C：不十分な点や課題が多く、計画どおりにいかなかった

令和元年度の取組項目と具体的取組及び評価項目

図書館事業評価一覧	
令和元年度の目標と行動計画	
1 資料の充実	
評価のポイントと取組事例	<p>(1) 学習拠点としての資料の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び直しに役立つ基本的な資料の分野ごと買直し検討（中央） 今年度はリカレント教育の観点から資料の購入を行った。 特に、英検や漢検、簿記検定等の一般的な資料だけでなく、特殊な知識や技術、資格に関する検定資料等を購入している。 『認知症ケア指導管理士試験』（中央） 『わかりやすいエネルギー管理士熱分野合格テキスト』（中央） 『ウイスキー検定公式テキスト』（西） 『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集』（三宮) など ・参考図書の充実（中央） 「AI 事典」や「労働六法」等新しい分野や注目されている分野の参考資料の充実を図っている。 ・オンラインデータベースの充実（北神） 4/23 開館と同時に「官報」「BOOK PLUS」「ルーラル電子図書館」の3種を提供開始 <p>(2) 地域資料の充実</p> <p>今年度は、特に古本市等を利用し、郷土関係の貴重資料の収集を重点的に行った。 『改正神戸市地図』1924[大正13年] 『有馬名勝圖』1906[明治39年] 等 また、秘書課収集資料の寄贈や他部局からの行政資料の寄贈も多く受け、中央館、地域館とも資料の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各図書館の地域資料見直し 阪神・淡路大震災から25年目という節目の年を迎え関連資料の出版が相つぎ、新規購入を行うとともに買替・寄贈による収集を行った。 『神戸の慰霊碑を訪ねて：阪神淡路大震災から25年を迎えて』 『心の傷を癒すということ（新增補版）』 その他にも、地域の特色を生かした資料の収集を行った。 『パ酒ポート』（東灘） 『North Kobe Guide』（北神） 『ここらへんを散歩する～長田、新開地の喫茶店とか』（兵庫） ・各区まちづくり課との連絡強化 まちづくり課作成の『North Kobe Guide』には北神図書館について、『ぶらり散策マップ：兵庫区・JR兵庫駅界限』には兵庫図書館について掲載された。

	<p>須磨区作成の絵本『すまぼうとにっこりごあいさつ』を含め、区等の作成資料については、作成区に限らず多くの図書館で閲覧ができるよう資料収集に努めた。</p> <p>その他、まちづくり課を通じて、区内の大学等のイベントチラシの入手・配布にも努めた。</p> <p>(東灘)</p> <p>(3) ユニバーサルデザインに配慮した資料収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LLブック等の積極的収集 (R2.3.31 現在) LLブック：約127冊(うち新規購入数 66冊 新刊が少ないため) 大活字本：約30タイトル 約180冊
<p>評価</p>	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び直しに役立つ資料については、新規分野の購入も行い、幅広く収集することができた。また、ユニバーサルデザインに配慮した資料収集についても、新刊資料は少ないが、各館が提供できるよう、積極的に収集した。 ・地域資料の収集については、積極的に情報の収集を行い、提供できるようしているが、最近紙媒体での提供が減り電子データでの提供が増えてきているため、電子図書館の機能を活用して提供するなど、新たな方法を検討したい。 ・ユニバーサルデザインに配慮した資料収集についても、紙媒体だけでなく電子媒体を活用した収集を検討したい。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <p>(1) 学習拠点としての資料の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新しい職業」という観点をもっと取り入れてはどうか。ドローンを使った仕事、YouTuber、プログラミング教育にかかわる仕事など、これまでの職業分類とは異なる実態が図書館側から見えていないのではないかな。 <p>(2) 地域資料の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古書収集よりもデジタルアーカイブを充実させることが必要だろう。 ・収集した地域資料として記載されている事例はかなり少ないように感じるが、実際はもっと多くあるのだろうか。電子データについて電子図書館機能を活用しての提供を検討したいとしているが、ぜひ進めてほしい。 ・神戸市各区の歴史が身近で分かりやすくなるよう、図書館と各区まちづくり課がタイアップして、神戸市の歴史に市民が理解を深めるよう取り組んでほしい。各区には、町の歴史の参考になる資料、データがあると思うので、有効に活用してほしい。 ・(1)(2)について、多様で新しい知識情報を提供する試みとして評価できる。入手しやすいものだけでなく、利用者が少数であっても、地域住民のニーズに応じた資料収集も重要であり、どこも同じものを揃えるのではなく、各館に特色があること、それらがネットワークで検索、利用しやすい状態にあることも評価できる。 <p>(3) ユニバーサルデザインに配慮した資料収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前協議会の際に初めて知ったLLブックなどだが、新刊が少ないなりに収集されていて良かった。 ・今年のコロナ禍でより需要が求められる、ユニバーサルデザインに配慮した資料収集の電子媒体への活用化を早期に実現できるよう、検討してほしい。 ・現状においても充実を図っているものとして評価できる。 <p>(その他全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の自己評価において「紙媒体だけでなく電子媒体を活用した収集を検討したい」とあるように、音声読み上げ機能付き電子図書館サービスなど、電子資料やAIなどICT活用型図書館サービスに移行していくべきであろう。 ・自己評価に書かれているように、電子媒体を活用しての収集、発信に、今後一層取り組んでいただきたい。

- ・今後、ますます電子媒体が主流になるだろう。
- ・電子媒体の活用ということが挙げられていたが、学校でもギガスクールの構想が進められているが、そうなると、市立図書館でも電子媒体の充実が求められるようになる。さらなる充実を求めたい。
- ・全体として、紙媒体以外の媒体の収集がさらに試みられることを期待したい一方、活字と紙の感覚を好む利用者が少なくないので、両立をお願いしたい。

評 価

B

2 学習機会の提供（児童向けは、6 子供サービスの項へ）

評価の
ポイント
と取組
事例

(1) 仕事や地域活動に役立つ情報・機会の提供

イベント開催数 17 回・参加人数 142 人 展示の回数 43 回

・講座、講演会、展示、その他イベントの実施

「展示『神戸市大水害 写真とスケッチの記録～貴重資料デジタルアーカイブズ～』」（中央）

7/2～7/15

「展示『認知症について知りたいことが、いっぱいあります。』」（中央）9/18～9/29

「認知症予防展示」（北神・西）9 月

「データベースセミナー」（三宮）4/10 1 人・5/15 1 人・7/17 1 人・11/20 1 人・2/19 1 人

「障害者が地域で暮らすこと@図書館 vol.2」（兵庫）12/6 5 人

自立生活センターリングリング連携

昨年に続き 2 回目を開催。障害を持って生まれた人が地域で普通に暮らすことの意味、意義を当事者自身が語るトークセッション。今回は聴覚障害にスポットを当て、簡単な手話ゲームも交えながら聴覚障害者の視点、日常に触れた。

「展示『創業する前に知っておきたいこと』」（中央）2/1～2/29 日本政策金融公庫連携

(2) 生活の質を高める情報・機会の提供

イベント開催数 158 回・参加人数 4,162 人 展示の回数 498 回

・講座、講演会、展示、その他イベントの実施

「岡田淳氏講演会 ぼくはこうして物語作家になった」 於：婦人会館 5/11 185 人

「鈴蘭台でのひととき 地域と防災について思う」（北）6/23 イベントでブックリスト配布

6/22～6/30 館内で関連図書展示

「雨庭ワークショップ 第 4 弾「雨と緑とアニメ」」（西）6/29 30 人

アニメ作品のなかの雨のシーンを考察、雨の風景と雨の日の過ごし方について考えるワークショップに、関連資料展示とブックリスト配布で参加

神戸市立工業高等専門学校都市工学科・総合運動公園

「みんなで楽しむ音読の会」（中央）8/1 10 人・12/5 11 人

「管理栄養士さんに教わる発酵食品健康講座」（北・北神）8/25 12 人

【健康について考える機会になり勉強になった。参考図書のリストがとてもよかった。】

「資料展示『月の光に誘（いざな）われ』」（須磨）10/16～11/10

アラビアンナイトをモチーフにした装飾で、ファンタジーの物語や世界観の本を展示。

【本の装丁がきれいな本など見栄えを重視し、普段あまり借りられない本も手に取っていただけだ。】

「大人の楽しい朗読」（新長田）6 回 203 人

「大人の一日図書館員」（灘）11/2 4 人

製本や分類の説明・予約図書探し・OPAC 体験・図書のコーティング体験を行った。

【特にコーティング体験が人気で、またやりたい、コーティングだけの講習もあれば参加したいというお声をいただいた。】

「大人の工作教室『万華鏡』」（東灘）11/3 8 人

「北欧伝統装飾ヒンメリづくりに挑戦!」（新長田）11/4 7 人

【工作の難易度がやや高い分、満足度も高かったようで、こういった機会があればまた参加したいというお声をいただいた。】

「トールペイントの世界」（灘）11/4 5 人

「大人のためのストーリーテリング」（北神）11/6 46 人

「北神で 川柳よんで 笑おうね」（北神）

11/1～11/30 川柳コンクール作品募集 応募人数 26 人 83 句

12/3～12/20 川柳コンクール人気投票 投票者数 1113 人

1/4～1/31 川柳コンクール結果発表 上位 20 位を館内掲示。冊子を作成し、上位者に贈呈

「今週の背表紙川柳」（兵庫）11/3～

ミニコーナーにてスタッフによる「今週の背表紙川柳」毎週一句を展示（本の背表紙を並べて川柳（三行詩）を作る）。興味を持った方は、気軽に参加できるように案内した。

	<p>「KOBE 1970-80s 作品展」(三宮) 11/25~12/8 もふもふ堂(神戸市在住イラスト画家) 1970~80年代の三宮・元町の風景のイラストを勤労会館1階ギャラリーに展示 「だれでもできる! ストレッチ講座」(新長田) 12/11 8人 Shimizu 整骨院 院長と図書館スタッフによるストレッチ講座、ミニブックトーク 「KOBE 須磨きらくえん「青空市」参加(須磨) 2回 125人 KOBE 須磨きらくえん連携 「震災朗読会 令和の風にのせて」(新長田) 1/19 27人 「本の案内しよっ ~出張図書案内~」(北) 2/23 9人 鈴蘭台ブックストリート参加施設の「街の図書室」にてミニブックトークと利用案内。 【共催者や参加者に「図書紹介」の理解が得られ、継続して企画してほしいと好評だった。】</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">評価</p>	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史に触れる展示や同じコミュニティの中に暮らす人たちを知るイベント、自身のスキルを高めるセミナーなど各方面から地域活動や仕事に役立つ取組みを行った。 ・身近な食生活や防災を考える催し、本そのものを楽しむ展示、言葉や文章それ自体を味わう講座等、図書館利用を契機として暮らしを見直し楽しむ機会を多様に提供した。 ・新型コロナウイルス感染症によるイベントの中止が多く、年度末に予定していた講座等の行事が実施できなかった。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <p>(1) 仕事や地域活動に役立つ情報・機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス支援関連の情報・機会の提供が「展示『創業する前に知っておきたいこと』」(中央図書館、2/1~2/29)というのは少なすぎるのではないかと。また「データベースセミナー」(三宮)の参加者が毎回1人というのは、工夫が足りないのではないかと。データベースを紹介するというイメージではなく、利用者にとって魅力あるテーマを設定して、それを探求する時にデータベースを使えばこれだけの図書館情報資源が発見でき、活用することによって、これだけのメリットがあるという訴求力の高いセミナーとして再編成する必要があると思われる。 ・新型コロナウイルスの影響でイベントの中止も多かったということだが、それでも数多くのイベントを開催していると感じる。このなかで、データベースセミナーの参加者が毎回1人なのはなぜなのだろう。内容や開催方法などを再検討する必要があるのでは。 ・中央区や北神、西図書館でも認知症関連の展示をされていて、素晴らしい企画である。40代でも若年性認知症があり、展示で学習機会を提供されることで図書館へ足を運びたいと思う。兵庫区の取り組みに12/6『障害者が地域で暮らすこと@図書館 vol.2』のネーミングにもう少し工夫、配慮があればと思う。神戸市民であれば、誰でも利用できる図書館なので、どなたでも参加できやすいイメージが好ましく、何か分断するようなイメージがある。 <p>(2) 生活の質を高める情報・機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様なイベントが行われ、評価できる。ただ、図書館の自己評価において、「新型コロナウイルス感染症によるイベントの中止が多く、年度末に予定していた講座等の行事が実施できなかった」という振り返りではなく、むしろ「ウイズコロナ」「アフターコロナ」の時代には対面型イベントだけではなく、「Zoom」や「Webex Meeting」などのテレビ会議システムを使ったりリモート開催を今後積極的に行っていく必要があるという「総括」が重要である。 ・生活の質を高める情報・機会の提供が多くなされているので続けていただきたい。 <p>(その他全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な興味深い内容の機会が提供されていて、よいと思った。参加された方の声を生かして、新たな企画などにもつなげて欲しい。 ・コロナ感染拡大と自粛で、生活のスタイルが大きく変わったと感じている。過去の生活、シンプルな生活を取り戻せた様にも感じる昨今だが、学習の機会、情報発信にそのあたりを留意したテーマを取り上げてほしい。 ・中央が中心ではあるが、他の区の図書館でもイベント内容にカラーがあっているとと思う。with コロナの今、イベントのあり方も模索してほしい。

・数値的には十分に努力できている。だれに何を伝えようとした企画が実際にはどうであったかのデータがあると、さらに説得的であると思われる。自己評価に記載されている新型コロナウイルス感染予防によるイベント中止は残念であるが、多くで試みられているようリモート対応への動機づけになっているので、むしろ図書館という物理的な場所へ行かなくても図書館を利用できたり、楽しめたりする新たな機能を開発する契機にされてはどうであろうか。権利関係の問題の残るが、多くのイベントをレコーディングし、新たなライブラリーにできれば資源を有効に活用できるかもしれない。提供する中身の問題と同時に提供の仕方を工夫していくことに気づかせてくれたと思われる。

評 価

A

3 関係機関との協働 (2からの抜き出し)

評価の
ポイント
と取組
事例

(1) 行政機関との連携

イベント開催数 22 回・参加人数 594 人 展示の回数 73 回

・保健福祉局

「食育月間関連展示」(須磨) 6 月

「自殺予防週間関連展示」(全館) 9 月

「展示『認知症について知りたいことが、いっぱいあります。』」(中央) 9 月 (再掲)

「自殺対策強化月間関連展示」(全館) 3 月

・各区まちづくり課

「垂水マスターズゼミ(垂水) 10~12 月 垂水区役所、垂水社会福祉協議会等

「輝け★須磨オヤジ塾『第 5 回図書館の使い方』」(須磨) 12/12 16 人

須磨区役所、須磨区社会福祉協議会等

図書館の便利な使い方について(電子図書館等)と、ワークショップ『一箱図書館長』。

テーマを決めて選書を行い、小さな箱図書館を作る。その後 12/28 まで館内で展示。

・文化財課

→6 子供サービスの項へ

・産業振興センター

「『神戸セレクション』講演会 そして、挑戦は続くー神戸・100 年企業の物語ー」(中央)

12/7 37 人 神戸市産業振興財団

神戸市産業振興財団の事業「神戸セレクション」で認定された商品の企業 2 社(神戸で 100 年以上の歴史を持つ、菓子製造の(株)亀井堂總本店とマッチ製造の(株)ナカムラ)を招いての講演会。

【神戸が好きな方、企業経営に関心のある方が参加された様子だった。「亀井堂さんと神戸関わりを聞くことができて楽しかった」「神戸がマッチの町とは知らなかった」「災害用マッチ、とても良いアイデア】

・文化ホール、KIITO など

「展示『神戸ジャズデイ 2019』」(中央) H31. 3/29~4/7 神戸市民文化振興財団

パネル・ポスターの展示、チラシ配布、関連図書展示

「展示『“KOBE”を語る GHQ と神戸のまち』」(中央) 8/14~8/31

デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)で平成 30 年度に開催された展示の一部を巡回展示

「inseparable『変半身(かわりみ)』プレトークイベント村田沙耶香×松井周」(中央)

9/14 67 人 神戸市民文化振興財団

12 月に文化ホールで開催の演劇作品原作者と演出家によるトークイベント

【若い人の参加が多かった。「有名な小説家や演出家の話を聞くことは初めて」「こじんまりしたスペースだったので、距離感が近く良かった】

・日本政策金融公庫

「展示『創業する前に知っておきたいこと』」(中央) 2/1~2/29 (再掲)

・その他

「太田治子氏講演会」(新長田) 10/13 69 人 於: 細田地域福祉センター・ふたば学舎連携

【参加者からお喜びの声や再演のご要望など反応を多くいただいた。】

「U5H(=United 5koku of HYOGO(兵庫五国連邦)プロジェクト)ポスター掲示」(三宮)

2/5~2/18 兵庫県企画県民部広報戦略課

(2) 学校園との連携 →6 子供サービスの項へ

(3) 大学との連携

・神戸大学等、地元大学との連携イベントの開催

「星空の世界を広げよう」(灘) 8/16 23 人・2/16 29 人 神戸大学天文研究会共催イベント

「資料展示『和×夏』」（須磨）8/20～9/19 神戸女子大学ビブリア部との共催
おすすめの本と本の紹介POPの展示

「図書館で落語会」（灘）8/10 14人 神戸大学落語研究会

「人形劇がやってくる」（灘）12/14 23人 神戸大学児童文化研究会

- ・大学が実施する地域貢献事業への支援

「KITサイエンスカフェ」（新長田）6/2 17人、「KITまちコラボ」（新長田）8/20 10人
神戸常磐大学、子育て総合支援施設KITとの共催。図書館は各回テーマに関するブック
トックとブックリスト配布、団体貸出で参加

- ・実習やインターンシップ、見学等の受け入れ 45日間・延べ85人

「実習」（中央）同志社大学 8/20～8/24 3人

「インターンシップ」（中央）大手前大学 8/6～8/10 1人

（中央）神戸女子大学 8/15～8/17 2人

（須磨）神戸女子大学 8/6～8/10 1人・8/14, 8/16～8/18 2人

（垂水）県下の大学（垂水区役所経由） 8/21 4人

(4) 企業との連携 6回・119人

- ・ビジネス支援講座の実施（中央、三宮）

※新型コロナウイルス感染症対策のため中止（中央2/29、三宮3/8）

- ・神戸セレクション関連イベントでの地元企業との連携（中央）（再掲）

「『神戸セレクション』講演会 そして、挑戦は続くー神戸・100年企業のお話ー」

12/7 37人 神戸市産業振興財団

- ・出版社・書店との連携イベント（中央）

講演会「本を届ける vol.2『読まなきゃ！100年先も本はある？』」11/9 50人

昨年度から開始した書店や出版界との連携で行う企画「本を届ける」の第2弾。昨年度の
講師である神戸新聞社松岡健氏と、神戸ゆかりの作家福田和代氏との対談形式での講演会。

【対談形式が聞きやすかった。今後もこのような本に係る企画をと望む声があった。】

- ・その他

「楽天技術研究所サマーインターン2019」（中央）9/10～9/16

楽天でのインターンシップ学生による実証実験。来館者と“本との新しい出会い”を促す
ため、読書の秋におすすめする本の「ジャケットや見どころポイント」を一覧して紹介す
るデジタルサイネージシステムを1階ロビーに設置。

(5) 地域団体・NPOとの連携

イベント開催数56回・参加人数1,105人・展示の回数67回

- ・既存の関係団体との連携継続（KFC、神戸アーカイブ写真館等）

「気軽に落語会」（灘）4回 79人 楽喜（ラッキー）落語研究会連携

「パネル展示 レトロKOBEフォトマップ展」7/2～10/6（東灘・灘・三宮・新長田・須磨・
垂水・西）神戸アーカイブ写真館連携

「ミャンマーの皆さんの夏休み図書館見学会『夏休み読書の会 -pre-』」（新長田）7/27 14人
NPO 神戸定住外国人支援センター（KFC）連携

図書館の利用案内(LL版利用案内・「としょかんのつかいかた」紙芝居を使用)、大型絵
本の読み聞かせ、図書館カード作成、自由閲覧

【ミャンマー語での挨拶に嬉しそうにこたえてくれ、利用案内や絵本をとっても興味を持って
聞いてくれた。子供達からは自主的な発言も多く、和やかな雰囲気ながら活気ある時間と
なった。】

「夏休み読書の会～ミンガラーパー ミャンマー～」（新長田）8/20・8/27 11人

NPO 神戸定住外国人支援センター（KFC）連携

7/27 図書館見学会に参加の子供達に対して、読み聞かせ、工作会、図書館クイズラリーを実施

【子供達は図書館に来るのを本当に楽しみにしていたと、支援員の方から聞いた。】

	<p>「震災 25 年パネル展示『神戸の慰霊碑を訪ねて』」1/10～2/2（東灘・灘・三宮・新長田・須磨・垂水・西）神戸アーカイブ写真館連携</p> <p>「ええとこながた ～多文化をたのしもう～みんなちがってみんないい」（新長田）2/24 45人 世界の国の絵本の読み聞かせと展示。韓国語・中国語・ベトナム語・英語の絵本も展示。 ふたば国際プラザ連携</p> <p>・連携先と相互に利用 PR</p> <p>「障害者が地域で暮らすこと@図書館 vol.2」（兵庫）12/6 5人（再掲） 自立生活センターリング連携</p> <p>「本の案内しよっ ～出張図書案内～」（北）2/23 9人（再掲） 大人の居場所研究舎なりわい連携</p>
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種関係機関と連携した多くの取組みを実施。特に地元企業や作家の方々を招いての講演会では、普段接することのない生の声に触れ、紙媒体から得られるものに奥行きを持たせた情報提供ができた。 ・他機関との連携展示では、様々な年代・属性の人が訪れる図書館の性質を活かした幅広い情報提供を行うとともに、観覧者の興味・関心を広げ、読書につながるよう努めた。 ・館ごとに、その地域ならではの連携先と行事を実施することで、各館の色合いが出始めている。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <p>(1) 行政機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなイベントが実施されているが、最も重要なのが図書館が神戸市の「情報センター」機能をはたすというミッションを明らかにするイベントであろう。例えば、神戸市のホームページのトップ画面に図書館の検索窓を置き、ここにキーワードを入力すれば、各部局が発行する冊子体やHTML形式の広報に関して、網羅的に検索できるしくみをトライアルで作成し、行政支援サービスの先駆的活用事例として示すといった連携である。 <p>(3) 大学との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内各大学の大学生に向けて、大学図書館では所蔵していない地域資料の活用方法について積極的に打ち出していく必要がある。大学生の公共図書館利用は「本好き」の学生への貸出サービスにとどまっているのではないか。学術情報を扱う大学図書館とは異なる公共図書館の使い方を大学生に広報していくことは重要である。また、大学図書館のホームページに神戸市立図書館の利用者カードを作成すれば、電子図書館サービスを受けられることを示すリンクを貼ってもらい、積極的に市内の大学に在籍する学生に活用していただく取り組みが必要だと思われる。 <p>(4) 企業との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きい企業だけではなく、中小の神戸を代表する商店等との連携にも取り組んでほしい。 ・例えば、神戸市内にある「神戸市立博物館」「UCC コーヒー博物館」「白鶴酒造資料館」など数多くの博物館、美術館、公文書館、資料館などと、デジタルアーカイブズ構築の観点からもっと連携を模索する必要があると思われる。 <p>(5) 地域団体・NPO との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO 神戸定住外国人支援センター（KFC）との連携は高く評価することができる。このような指定管理者が新しい発想で行う「多文化サービス」などを、より積極的に進めていく必要がある。「図書館の自己評価」にあるように、「館ごとに、その地域ならではの連携先と行事を実施することで、各館の色合いが出始めている」と考える。 ・特に（5）の地域団体・NPO との連携による行事、イベントは、利用者のすそ野を広げ、図書館がより開かれたものとなる助けになると思う。続けていただきたい。 <p>(その他全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学や地域団体・NPO との連携についてはさらに積極的に進めてほしい。作家などの講演会は図書

館として力を入れてほしい催しだ。「紙媒体から得られるものに奥行きを持たせた情報提供」は、利用者が強く望んでいることだろう。充実させてほしい。

・神戸市の老舗 亀井堂総本店とマッチ製造の(株)ナカムラとの講演会には神戸で起業を考える方も参加されたとのことで、これからも継続してもらいたい企画だが、コロナ禍ではリモート講演会や、YouTube で開催していくのも検討できたらと思った。学生向けにも実習やインターンシップの経験を通して図書館により親しみ、足を運んで利用してもらい、チラシやポスターではなく、デジタルサイネージシステムを実験的に使っているのも評価できる。

・取組事例が多く継続してほしい。

・(1)～(4)について、十分な数値実績として評価できる。さらに、連携先の維持、拡大を期待したい。さらに、どこでどういったことがなされているかの市民への情報を簡単に入手できるとありがたい。

評 価

A

4 新たなサービスや機器

評価のポイントと取組事例

(1) 図書館サービス網の拡充整備

- ・ 駅周辺の返却ポスト利用 PR 令和2年2月の1日平均利用冊数

灘：95冊、名谷：155冊、垂水：102冊

9月に、JR 灘駅、JR・山陽電鉄垂水駅、市営地下鉄名谷駅に設置の返却ポストに、市所属のクリエイティブデザイナーによる、動植物を配したデザインの装飾ラッピングを施した。

開始後の駅周辺ポストの返却冊数＝123,486冊（平成31年2月から令和2年3月末まで）

- ・ 垂水区北部の予約図書受取コーナー設置 1日の貸出冊数＝平均100冊以上

ランチ神戸学園都市予約図書受取コーナーは8月16日のオープン以降、順調に利用が伸びている。令和元年度の1日あたりの貸出冊数は、予約図書受取コーナーの中ではベスト2であった。

(2) 快適便利な高機能機器の導入

- ・ 書籍消毒器の設置（北神）

4/23開館と同時に設置、供用開始。1日平均30件程度の利用がある。

- ・ 公衆無線LANの設置（北神）

4/23開館と同時に設置、供用開始。アクセス数は1日平均約30件。

(3) ICT技術を活用したサービスと情報提供

- ・ 電子図書館サービスの検討

当初、令和2年4月末まで2年間の試行実施であったが、新型コロナウイルスの影響により、図書館サービスを制限せざるを得ない状況を受け、サービスの空白期間が生じないように試行実施期間の延長（令和2年12月まで）を決定した。加えて、申し込み方法を簡便化したため、より多くの方にご利用いただいている。また、コンテンツについては、令和2年3月に、休校中の小学生・中学生をターゲットに、新たにおよそ300冊分のコンテンツを追加購入した。現在、サービス内容の検討・提供事業者の選定を行い、令和2年度中の本格実施を目指し作業中。

- ・ HPやSNS、デジタルサイネージでの情報発信

図書館HPやFacebookで、行事の案内や報告などを引き続き発信中。1月より、中央、兵庫、北神図書館では、モバイルバッテリーシェアリングサービスのデジタルサイネージ機能を活用し、館内行事等のPRを始めた。

【図書館の自己評価】

・ 返却ポストについては、前回試行実施時よりも数多くの方に利用いただいております、まずは成果があったといえる。ただ、他の場所にも返却ポストを設置してほしいとの要望も寄せられているが、物流コストの増大もあり今後の課題となっている。

・ ブランチ神戸学園都市については、多くの方に利用いただいております好評である。今後さらにロコミ等で広まれば利用は伸びると考えられる。

・ 電子図書館は、新型コロナウイルスの影響を受け、3月～5月にかけて貸出数が増え、また利用申込も臨時休館後に再開した5月に急増した。

【図書館協議会の評価・意見】

(1) 図書館サービス網の拡充整備

- ・ これまでの取り組みは高く評価することができる。

- ・ 駅周辺の返却ポストの拡大をお願いしたい。（神戸・元町・三宮）

・ ニュースでも大々的に取り上げられていたが、駅など便利な場所の返却ポストが素晴らしいと思う。コロナでますます需要が増えると思う。

(2) 快適便利な高機能機器の導入

・ 書籍消毒機の設置については、各館に配置すべきであると考えている。「ウイズコロナ」「アフターコロナ」の時代に設置している館とそうでない館があるのは問題であろう。

評価

・北神図書館の消毒器はコロナ禍の今、需要がより多く求められると思うので、まだ設置されていない区でも早急に設置してほしい。公衆無線 LAN は、まだ使ったことはないが、学生～若い世代の利用があると思うのでこちらもお願いしたい。

(3) ICT 技術を活用したサービスと情報提供

- ・電子図書館サービスの本格的導入、デジタルサイネージについての記述はあるが、さらに「Pepper」（ペッパー）や「Robohon」（ロボホン）などのロボットを活用した館内案内等の業務、QR コードを活用した在留外国人向け書架案内も検討すべきである。”
- ・電子図書館の充実が急務だと思う。
- ・電子図書館のさらなる充実を望む。

(その他全般)

・毎年の努力を継続していることを評価したい。緊急事態宣言時のステイホームを求められたときに、図書館サービスを十分に提供できなかったことが残念であった。休館のため対応しようがなかったと思われるが、今後のウィズコロナを見据えて、職員の方の健康を守りながら、蔵書貸し出しサービスが継続できる工夫に期待したい。返却ポストと同様に、宅配や郵送だけに頼らない神戸市の各種施設を利用した貸し出し拠点が整備できるとありがたい（なかなか協力は得にくいと思われるが）。

評 価

A

5 利用しにくい市民への環境整備	
評価のポイントと取組事例	<p>(1) ユニバーサルデザインに配慮したサービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面朗読（中央、東灘、新長田）のPR 利用のべ人数 135人 対面朗読サービスの案内ポスターを館内に掲示、ホームページの案内内容リニューアル ・郵送貸出（中央）のPR 利用のべ人数・のべ冊数 170人 510冊 郵送貸出サービスの案内ポスターを館内に掲示、ホームページの案内内容リニューアル ・高齢者福祉施設等への出前おはなし会 [前掲2からの抜き出し] 「ふくろうの会×図書館 高齢者向けおはなし会」（新長田）9/22 60人・1/26 53人 細田地域福祉センターにて、ボランティアグループ「ふくろうの会」と協力し、高齢者に向けて絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊び歌等を行った。 「本の案内しよっ ～出張図書案内～」（北）2/23 9人（再掲） 大人の居場所研究舎なりわい連携 <p>(2) ユニバーサルデザインに配慮した利用しやすい環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用案内改定 子供用多言語版（英語・ハンガール・中国語・ポルトガル語）の改訂 ・HPの障害者サービスページ作成 11/1 掲出 ・音声読み上げ機能付き拡大読書機の設置（北神図書館）4/23 開館と同時に設置、供用開始 <p>(3) 図書館を利用していない市民層への働きかけ [前掲2・後掲6からの抜き出し]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用促進をはかる館内外での利用講座、「出前トーク」の実施 「みんなおいでよ！Baby & Kids フェス in 東灘図書館」（東灘）5/24 109人・5/25 185人 「図書館べんりガイド」（須磨）10/20 68人 「LOVE LOVE LIBRARY～西図書館講座～」（西）10/24 6人・10/31 9人・11/7 7人 「出前トーク：図書館貴重資料に見る“こうべ”」（中央）4/24 97人・7/4 55人 「出前トーク：子供の発達と読書」（中央）5/8 5人 ・ママフレや長田区アプリ等メディアへの情報提供 「ためまっぷ中央」（三宮）「ためまっぷ長田」（新長田）「ナガイク」（新長田）への情報提供 エコール・リラのLINEを利用した行事等の情報提供（北神）
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面朗読サービスのPRを行ったが、2月27日から新型コロナウイルス感染症対策によりサービスを休止。再開は今後の状況による。 ・新規の取り組みとして、細田地域福祉センターへ出向き、絵本の読み聞かせ等を始めた。 ・新規の取り組みとして、外部アプリ等への情報提供を始めた。 ・読書バリアフリー法施行に伴い、さらに一層サービスの充実を図る必要がある。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <p>(1)ユニバーサルデザインに配慮したサービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すでに提供されている対面朗読、郵送貸出、高齢者福祉施設等への出前おはなし会だけでなく、音声読み上げ機能を有した電子図書館サービスや自動翻訳機能を活用したカウンター対応など行うべきだろう。「視覚障害者等の読書環境の整備に関する法律＝読書バリアフリー法」では次のように定められている。 ●アクセシブルな電子書籍等（デジタイズ図書・音声読み上げ対応の電子書籍・オーディオブック等）が視覚障害者等の利便性の向上に著しく資することに鑑み、その普及が図られるとともに、視覚障害者等の需要を踏まえ、引き続き、アクセシブルな書籍（点字図書・拡大図書等）が提供されること ●アクセシブルな書籍・電子書籍等の量的拡充・質の向上が図られること ●視覚障害者等の障害の種類・程度に応じた配慮がなされること

- ・児童館、身障者施設等での読み聞かせ教室等に取り組んでほしい。
- ・対面朗読サービスは、コロナのため・・・とあるが、それに代わる工夫が必要だと思う。
- ・対面朗読などが、コロナウイルス感染症対策のために出来なくなったとの事だが、高齢者や基礎疾患がある方も含めて弱者に向けてのサービスを今だからこそ充実してほしい。他の市町村では移動図書館などもあり、魅力的だった。

(2)ユニバーサルデザインに配慮した利用しやすい環境の整備

- ・障害者を有する市民だけではなく、性的少数者（セクシャルマイノリティ）である LGBT に配慮した「だれでもトイレ」の設置が各館に必須である。

(3)図書館を利用していない市民層への働きかけ

- ・出前トークの試みはすばらしいと思う。
- ・小学生から高校生までの児童・生徒を対象としたものと、大学生や社会人を対象とした利用者カード作成を呼びかける機会を増やすことが重要である。とりわけ非来館型サービスとしての電子図書館サービスをいつでもだれでも使えることを知らせる広報を神戸市民全体に対して行うべきだろう。

(その他全般)

- ・新型コロナウイルスの影響で、サービスの充実が難しかった面はあるだろうが、より多くの人たちが利用しやすい環境づくりに積極的に取り組んでほしい。

- ・サービス提供範囲が広く、どこまで提供できるかがむずかしいが、現状でもできうる提供をしているものとして評価したい。さらにサービス範囲をリサーチして、だれが何を必要としているかの把握をお願いしたい。ただ、図書館だけではヒューマンパワーに限界があるので、すでに連携しているとは思われるが、各種ボランティア団体、学生活動団体との連携を進めていただき、図書館が多様で莫大な知の資源を有しており、それを必要とする市民に各種団体の力を借りながら多様な形で提供するというスタンスもさらに模索していただきたい。

評価

B

(1) 生涯にわたって読書を楽しむ習慣を育てるための読書環境の整備

・資料収集と計画的な買替え

児童書新規購入数：中央 3,851 冊（含 BM）・地域図書館 15,473 冊

・乳幼児と保護者向けサービス イベント開催数 285 回・参加人数 8651 人

「だっこでおはなし」（中央・三宮・兵庫・北・新長田・須磨・垂水・西）

児童館、地域子育て応援プラザ等に出向いて、乳幼児と保護者を対象に絵本の読み聞かせや紹介を行うプログラム。

「ほのぼのひろば」（新長田）月 1 回

地域子育て応援プラザ長田と図書館スタッフによる絵本の読み聞かせ、手遊び歌、育児相談

「おはなしゆりかご」（兵庫）10 月・11 月・1 月・2 月 各月 2 回

地域子育て支援センター兵庫と図書館スタッフによる本の紹介や絵本の読み聞かせ、育児相談、ふれあい遊び

「ちいさなお話会『おもちゃ to 絵本 魔法の子育て』」（兵庫）5/6 14 人

共催：MomLabo（講師：竹下あきこ氏）

「みんなおいでよ！Baby & Kids フェス in 東灘図書館」 5/24 109 人・5/25 185 人（再掲）

【男性による読み聞かせが新鮮で良かった。香りのイベントでは母親もリラックスでき嬉しかった。電子図書館早速申し込みます。】

「おはなしプレゼント in きてきてふれあいパーク」（北）10/25 190 人

北区役所 5 階で行われた子育て支援事業イベントに参加。

「パパのおひざでおはなし会～みんなであうたおう～」（新長田）1/12 16 人

「子育て情報紙」（各区子育て応援プラザ発行）におすすめ絵本を紹介（中央・西）

・館内外での子供と本をつなぐイベント

イベント開催数 961 回・参加人数 12,472 人・展示の回数 299 回（定例のものを含む）

<こどもの読書週間行事> ※期間中、ほか多数行事開催

「本のおたのしみ袋」（新長田、西）4～5 月

「母の日工作会」（北）5/12 12 人

<夏休み・読書週間・その他イベント>

◇図書館内

「リアルサイズ古生物図鑑パネル展示」（須磨）8 月

「リアルサイズ古生物 古生代編」（技術評論社）のパネル 11 枚の展示

「神戸キワニス文庫英語のおはなし会」（中央）年 3 回

カネディアン・アカデミー高校生による英語のおはなし会。キワニスクラブとの共催。

「影絵の世界」（灘）3 回 58 人 影絵劇団しろつめくさによる影絵

「アニマシオン」（灘・新長田）6 回 88 人 あにましおん探偵団

「工作ライブ！ラリー」（北神）3 回 62 人 エコール・リラとの共催

「工作会『けろけろキュービックボールをつくろう』」（兵庫）6/13 12 人

絵本作家、桐隆一さんによるワークショップ

【桐さんから好きなキャラクターを作品に描いてもらい、とても喜ばれていた。】

「ゆるっと歴史おはなし会」（兵庫）8/2 13 人

おやこ三国志 PROJECT による三国志に関連する歴史・文化のお話やクイズと人形劇

「兵庫図書館おばけやしき」（兵庫）8/11 120 人

こどもフェスタプロジェクト「こどもフェスタ夜市」開催時に地域住民との協同実施

「公民館サマースクール 図書館バックヤードツアー」（中央）8/21 38 人

「みる・きく・さわる」～”りか本”のよみきかせワークショップ～（三宮）11/10 25 人

バンドー神戸青少年科学館から講師を招いての工作と図書館職員によるりか本（子供向けの理科の本）の読み聞かせ

「クイズラリー 図書館キャラクターを探せ！」（垂水）10/20～11/9 99 人

【図書館キャラクターを知ってもらおう良いきっかけとなった。相談しながら探している子も

おり児童コーナーの配置を知る手助けになった。記念品のしおりも喜んでいただけた。】
「知ろう備えよう防災工作教室」（須磨）1/11 10人

◇図書館外

「絵本アブナイシリーズ原画展」（三宮）8月 絵本作家山本孝氏の原画を勤労会館1階に展示
「あすてっぷKOBE（市民参画推進局）情報ライブラリーでの『おはなし会』」（中央）年3回
「交通局イベント 夏休みおもちゃ箱列車」絵本貸出（中央）8月 100冊
「空気のおもしろ実験ショー&英語タイム&おはなし会」（須磨）8/4 217人（全体参加者数）
学研エデュケーショナル・須磨区民センターとの共催（手遊びと絵本の読み聞かせ）
「第8回しんながたぐにづか ローカル&ワールドフェスティバル（絵本の読み聞かせ・ブック
リスト配布・うろおぼ絵コーナー）」（新長田）11/24 148人
「ネズミcafé in 新開地冬まつり」（兵庫）12/8 50人 於：神戸アートビレッジセンター
ネズミが登場する絵本150冊の展示、紙芝居の読み聞かせ、なりきり工作コーナーがある
フリースペース
「こべっこランド（社会福祉協議会）クリスマスおはなし会『おはなしわーど』」
（中央）12/21
「こべっこランド（社会福祉協議会）イベント『ぬいぐるみの大冒険』」で配布のリーフレッ
トに絵本紹介を掲載（中央）12月

- ・小・中学生への調べ学習・宿題支援（調べ学習講座・イベント、パスファインダー作成等）
イベント開催数23回・参加人数356人・展示の回数8回
「出前調べ学習講座」（垂水）7月 垂水小、霞ヶ丘小、高丸小
テーマの決め方、図書館での本の探し方・調べ方、事典の使い方、記録方法などについ
て、夏休み前に出前授業を行う。
「夏休み調べ学習『カルタで遊ぼう！地域を知ろう！』」（北）7/27 5人 於：内田家住宅
「夏休み親子新聞教室」（垂水）8/4 12人（須磨）8/8 23人（西）8/10 12人
「自由研究相談室『神戸の遺跡相談室』」（西）8/9 10人 於：神戸市立埋蔵文化財センター
【バックヤード見学が面白かった。色々な保管方法を知ることができ楽しかった。】
「雲のふしぎ研究室」（西）8/16 8人
天気に関する実験（ペットボトル内で作る雲・電球で作る雷）と本を使った調べ学習
「夏休みふしぎ新聞を作ろう」（中央）8/22 4人
「読書感想文講座」（東灘・灘・西）7・8月
【最初は参加者のほとんどが「作文が苦手」と言っていたが、全ての参加者が配布したプリ
ントをきちんと埋められており、読書で感じたことを記す楽しみを体感してもらえた。
（東灘「もっと本が好きになる！読書感想文教室」）8/4 28人】
「親子新聞教室」（東灘）9/23 36人
「調べ学習『ロボットプログラミングに挑戦』」（北神）11/4 23人
講師：地元パソコンスクール「あすか」
【動作をプログラムするのは難しかったが達成感が大きかった。子供達が工夫しながらプロ
グラミングをしている姿が楽しそうだった。】
「ロボットプログラミングワークショップ『ロボット「こくり」をうごかしてみよう』」
（垂水）12/8 10人

「パスファインダー改訂 『職業』『天気』『豆』」（兵庫・北・北神）
「パスファインダー作成 『遊び』『魚』」（兵庫・北・北神）11月・3月
「パスファインダー作成 『港・船』」（東灘・灘・三宮・新長田・須磨・垂水・西）11月
- ・YAコーナーの充実を中心とした青少年層への読書推進
イベント開催数2回・参加人数32人・展示の回数（掲示等含む）181回
「イチオシ！～中高生読書交流会」（北）8/23 8人
「あなたの『推し本』教えてください～POPコンテスト2019～」（北）11/15～11/30

トライやる生徒作成のPOPを中心におすすめ本のPOPを募集し、来館者に投票してもらう
 POP参加人数：中学生8人 コンテスト投票人数：16人
 「生け花展示」（北神）6月～ ブックラウンジにて、北神区民センター生け花講座生徒（中高生）による生け花展示（生徒おすすめ本のポップも随時掲示）
 「YAおすすめ本紹介」（灘）
 「読みたい本を見つけよう」（北）書評と本を並べて貸出する展示
 「YAかわらばん」（須磨）須磨区民センター内に、YA世代を図書館へといざなうミニ掲示を掲出。
 「うる覚えコンテスト」（須磨）テーマを決めたイラストの募集など、中高生の参加も募っている。

その他YA向け参加型展示・図書館だより・掲示
 『ぶらっと一言コーナー』（新長田）、『おたよりコーナー』（西）、『ほんのわ』（北）
 『YA向け！紹介されると読みたくなる本』（北神）、『to youth…よんどく？』（新長田）

・学校と連携した中高生参加のイベント

「中学校図書係生徒のつどい」（中央）7/29 136人
 各校図書委員による情報交流およびビブリオバトル大会、中央図書館見学
 「トライやるウィーク参加中学生によるおすすめPOPと本の展示」（須磨）6/11～7/7
 「橘タウンミーティング」（兵庫）12/11 45人 於：神戸市立神港橘高等学校
 神港橘高校2年生を対象に地元兵庫区・神戸市の多様な分野で活躍する地域の人（個人・団体・企業問わず）＝達人として、その活動内容を直接聞くことで生徒たちの地域への関心を高め、神戸を支える「人財」育成に繋げる取り組み

(2) 学校園との連携

- ・団体貸出による資料提供
 - 「テーマ本集め」（全館） 貸出回数 448回・冊数 13,213冊
 - 「総合学習用図書」の貸出（中央） 貸出回数 199回・冊数 20,502冊
- ・幼稚園巡回図書の実施（中央）
 - 利用数：市立34園、私立15園（各120冊）
 - 過去の巡回図書の譲渡会：7/24・7/26 市立24園参加、541冊譲渡
- ・学校図書係と連携した研修など、学校司書支援
 - 学校司書研修会での講師（中央）：4回（新規採用者1回、経験者3回）参加人数：148人
 - 学校司書ブロック別研修会（於：学校図書館）への参加：市立図書館員10人
- ・教員・学校司書への新刊紹介等、情報提供（中央）
 - 小学校図書館部の教員および学校司書へ児童書を紹介
 - 年2回、紹介点数：260冊、参加人数：117人
- ・小学校出前ブックトーク（東灘・灘・三宮・兵庫・北・北神・新長田・垂水・西）
計18回
- ・高校出前授業「絵本の読み聞かせの講義・実践」
県立夢野台高校（兵庫） 県立友が丘高校（須磨） 神戸第一高等学校（中央）
計6回
- ・小学校からの見学受入 113回 6,669人

(3) 子供の読書活動推進に関わるボランティア等との連携や支援

- ・読み聞かせ等活動に役立つ講座の開催や新刊本等の情報提供
ボランティアスキルアップ講座（中央）4回 141人
 1. 講演会「少年少女の家とオズボーン・コレクションのおはなし」10/9 73人
 2. 「おはなし会のプログラムを作ろう 2回講座」1/24・1/31 計47人
 3. 児童書近刊紹介「2019年のこどもの本」2/13 21人
 4. 読書ボランティア交流会 2/27（コロナにより中止）
- ・ボランティア団体との連携企画
「おはなし会など定例行事でのボランティア導入・連携」

	<p>全館で28団体が、1か月あたり44回活動</p> <p>「夏休み特別おはなし会」(中央)7/23 75人 こうべ子ども文庫連絡会との共催</p> <p>・ボランティア交流会の開催</p> <p>「ボランティア報告・交流会」(西)6/10 15人</p> <p>「朗読ボランティア交流会」(垂水)7/16 7人</p>
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児と保護者向けサービスは、「だっこでおはなし」が定着したことに加え、父親参加の催し、地域団体との連携など広がりが見られている。 ・調べ学習支援は、夏休みの図書館利用につなげる出前講座、実験と本を組み合わせた調べ学習講座など、図書館ならではの支援を各館で工夫して行った。 ・YA層への働きかけとして、兵庫図書館で、地元高校生と地域で活躍する大人が交流する取り組みを行った。 ・子供たちへのブックトークや学校司書・教員への図書紹介のため、日頃から教育課程を理解し子供の本を知ることで、適格な支援に繋げている。 ・巡回用図書として各園に巡回し役割を終えた図書の「譲渡会」を、市立幼稚園へ今回初めて行い、喜んでいただけた。 ・読み聞かせ等ボランティアむけの講座に、「わらべうた」「エプロンシアター」等希望の多い講座を取り入れることを検討したい。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <p>(1)生涯にわたって読書を楽しむ習慣を育てるための読書環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ウイズコロナ」「アフターコロナ」の時代には、紙媒体に偏重することなく、子どもと読書の関係についても電子資料の活用を考慮するバランスのとれた施策を講じるべきである。具体的には「読み聞かせ」の対象者としての「子ども像」から、「絵本を制作する」主体としての「子ども像」への転換が必要である。公共図書館でのデジタル絵本の制作ワークショップを開催し、子どもたちが絵本を創り出す場を設定することから始めてみるべきであろう。 <p>(2)学校園との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取り組みはあまりにも「アナログ」的発想で展開されてきた。OECD(経済協力開発機構)による生徒の学習到達度調査(PISA)は、義務教育終了段階の15歳児を対象に、2000年から3年ごとに調査を行っているが、2018年調査(2018年6月～8月実施)では「日本は学校の授業(国語、数学、理科)におけるデジタル機器の利用時間が短く、「利用しない」と答えた生徒の割合が約80%に及び、OECD加盟37か国中で最下位となっている。[文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査2018年調査(PISA2018)のポイント」p.10.] [https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2018/01_point.pdf]つまり、オンライン授業や電子資料活用型教育実践を念頭におき、公共図書館として学校図書館の支援スタイルを変更していく必要がある。電子図書やデータベースの活用法に関する支援が必要である。 ・特に学校園との連携がありがたい。ぜひ続けてほしい。 ・学校園への団体貸出は、学校にとっては、とてもよい取組であるが、その調整を学校園の図書館部の教員がやっているので、その業務を図書館側にしていきたい。 <p>(3)子供の読書活動推進に関わるボランティア等との連携や支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取り組みは活発に行われており、高く評価することができる。 <p>(その他全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・YA向けの企画やイベントが増えており、頑張っておられると思う。学校との連携の「中学校図書係生徒のつどい」を中央図書館で開催されたのは、とてもよかったと思う。 ・さまざまな形や場所で子ども向けのサービスに取り組んでいることが感じられる。新型コロナウイルスの影響で家にいる時間が増えただけに、本に親しむ機会を増やすことに一層力を入れてほしい。 ・十分な活動をしているものとして高く評価したい。いずれもひとつひとつは意味ある内容と思われ

るが、全体として何をめざして何をやっているのかの総括を元に、継続する企画と、終了し新たに始める企画の選別が、魅力を維持し続けることになると思われる。サービスを提供された側がそのサービスによってどのようなベネフィットがあったのか、あるいは図書館ファン・応援団になってくれたのか、直後アンケートだけでないフォローアップデータを収集できると有用な基礎的マーケットデータ、あるいは人間発達と図書との関連を検証できるデータ（例：幼児期に本好きになると、将来も本好きなのか）が得られると思われる。同様に、個人データの関係で取扱がむずかしいかと思われるが、図書館には貸し出し情報と借受人情報の魅力的なデータがあり、単純集計やクロス集計を越えた統計分析を期待したい。

評 価

A